

構 造 特 記 仕 様 書		2024年度版																																							
選択項目は◎印を適用し、○印が無い場合は※印を適用する。 ○印が複数ある場合は、共に適用する。																																									
§ 1 一般事項																																									
1-1	使用材料は原則としてJIS規格適合品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。																																								
1-2	設計図書の優先順位は下記による。 1) 本特記仕様書 2) 設計図 3) 標準図																																								
4) 仕様書	◎ 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 ・ 鉄骨工作標準図 ・ 鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図 ◎ 高強度せん断補強筋施工仕様書 ◎ 鉄筋コンクリート壁式標準配筋図																																								
5) 日本建築学会標準仕様書	※ JASS5 2018年、JASS6 2018年																																								
1-3	各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監督者の承認を得る。																																								
1-4	構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。 第三者機関による検査・試験費用は工事費に(※含む・含まない)																																								
1-5	設計図面に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監督者の承認を得る。																																								
1-6	梁貫通位置、径、及び面荷数は(○意匠図 ◎構造図 ※設備図)による。																																								
1-7	その他																																								
§ 2 構造計算ルート																																									
2-1	<table><tr><th>方 向</th><th colspan="4">構造計算ルート</th></tr><tr><td>X</td><td>・ルート1</td><td>・ルート2</td><td>◎ルート3</td><td>・</td></tr><tr><td>Y</td><td>・ルート1</td><td>・ルート2</td><td>◎ルート3</td><td>・</td></tr></table>		方 向	構造計算ルート				X	・ルート1	・ルート2	◎ルート3	・	Y	・ルート1	・ルート2	◎ルート3	・																								
方 向	構造計算ルート																																								
X	・ルート1	・ルート2	◎ルート3	・																																					
Y	・ルート1	・ルート2	◎ルート3	・																																					
2-2	鉄筋の継手(定着)については設計図若しくは標準図による。 構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ ※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定 ◎ 日本建築学会 JASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋設計・同解説 ◎ 日本建築学会 RC標準2018 XY両方向共にルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5(2018)、鉄筋コンクリート造配筋設計・同解説及びRC標準2018とすることができる。																																								
§ 3 仮設工事、土工事																																									
3-1	山留め、根切り																																								
3-2	埋戻し土、盛土、残土処分 埋戻し土 ※ 根切り土の中の良土 ◎ 輸入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと) 盛土 ※ 根切り土の中の良土 ◎ 輸入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと) 残土処分 ・ 場内地均し ◎ 場外搬出処分(※ 自由 ◎ 指定場所)																																								
§ 4 地盤工事																																									
4-1	基礎及びスラブ下地業 (単位mm) <table><tr><th>場 所</th><th>詰てコンクリート厚さ</th><th>注1)</th><th>A : 砕 石</th><th>B : 砕 石</th><th>厚 さ</th></tr><tr><td rowspan="2">基 礎</td><td>独立 布</td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr><tr><td>ベ タ</td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">基 礎 梁</td><td></td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr><tr><td>土間スラブ</td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">土間コンクリート</td><td>屋内</td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr><tr><td>屋外</td><td>◎ 50 × 60 × 100</td><td>◎ A × B</td><td>◎ 60 × 100 × 150</td><td>・</td></tr></table> 注1)、アンカーボルト支持用フリュームの、あと施工アンカーを打込み部分は100以上とする。 注2)、端部aは100以上とする。 		場 所	詰てコンクリート厚さ	注1)	A : 砕 石	B : 砕 石	厚 さ	基 礎	独立 布	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・	ベ タ	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・	基 礎 梁		◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・	土間スラブ	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・	土間コンクリート	屋内	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・	屋外	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・
場 所	詰てコンクリート厚さ	注1)	A : 砕 石	B : 砕 石	厚 さ																																				
基 礎	独立 布	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
	ベ タ	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
基 礎 梁		◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
	土間スラブ	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
土間コンクリート	屋内	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
	屋外	◎ 50 × 60 × 100	◎ A × B	◎ 60 × 100 × 150	・																																				
4-2	設計地耐力(ごみ置場) 長期 30 kN/m ² 短期 60 kN/m ² 終局 kN/m ² 地耐力載荷試験 ・ 行う (箇所:長期設計耐力の3倍を確認する) ◎ 行わない																																								
4-3	地盤改良(ごみ置場) ・ 無筋コンクリート地業 ・ 締固め工法 ・ ソイルセメント杭 ◎ セメント系固化材灌漿 ・ 圧密排水工法 [◎ 載荷試験 ◎ 一軸圧縮試験] ◎ 行う (1箇所) ※ 行わない [◎ 六価クロム溶出試験] ◎ 行う ※ 行わない																																								
4-4	既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭 【杭伏図による】 1) 杭種 ・ PHC杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ ・ ST杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ ・ SC杭 t mm ・ PRC杭 ・ I 種 ・ II 種 ・ III 種 ・ IV 種 ・ 鋼杭 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ ・ 鋼管杭 2) 工法 ・ 打撃工法 ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ・ 埋込み工法 ・ プレボーリングセメントミルク注入工法 ・ プレボーリング拡大杭掘削工法(認定工法) 杭間固定液 ※ あり ・ なし ・ 中継拡大杭掘削工法(認定工法) ・ 回転埋設杭掘削工法(認定工法) ・ 回転杭工法 先行掘削 ※ あり ・ なし																																								

3) 杭種、設計耐力、本数表						
杭径(底部部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考	
()						
()					【杭伏図による】	
()						
()						

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強

・ かご筋

・ スタッド溶接

・ 杭外周溶接

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

・ アースドリル工法

・ 拡張アースドリル工法

・ リバース工法

・ オールケーシング工法

(・ ベント工法 ・)

・ BH工法

・

2) 杭種、設計耐力、本数表(底部部は施工径を示す)

杭径(底部部)mm	管径 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
()						
()						
()						
()						
()						

3) 杭先端深さ

・ GL - m

・ 杭リストによる

・ 杭伏図による

4) 孔壁測定 (2方向)

※ 行う (・ 全数 ・ %)

・ 行わない

5) 使用材料

コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JAS55水中コンクリートによる。

コンクリート

Fc (・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種)

鉄筋

・ D 以下 SD295

・ D 以上 SD345

・ D 以上 SD390

鋼管(リブ付)

・ SKK400

・ SKK490

4-6 杭打地業共通事項

1) [◎ 試験杭 ・ 試験掘] ◎ 行う (2本) ・ 行わない

2) 載荷試験

・ 行う (箇所: 長期設計耐力の3倍を確認する)

※ 行わない

3) 地盤布

・ 行う

※ 行わない

§ 5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類	径	継 手
◎ SD295	D 16 以下	※ 重ね継手 ・ スパイラル ・ 工場溶接
◎ SD345	D 19 以上 D25以下	・ 重ね継手 ◎ ガス圧接 ◎ 溶接継手
◎ SD390	D 29 以上	◎ ガス圧接 ◎ 溶接継手 ・ 機械継手(絞)
・ SD490	D 以上	・ ガス圧接 ※ 溶接継手 ・ 機械継手(絞)
◎ 溶接金鋼		◎ 重ね継手
◎ 高強度せん断補強筋	・ 1275級 P ◎ 785級 鋼材 S13 ・ 685級 U	◎ フック加工 ・ スパイラル ・ 工場溶接

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)

◎ 抜取り検査

・ 引張り試験(JISZ3120)

1検査ロットにつき ※ 3本

・ 原則 柱・梁の径毎に3本

◎ 超音波探傷試験(JISZ3062)

1検査ロットにつき ◎ 30箇所

・ 熱間押抜き試験

○ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形鉄鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(認定品)を使用する。

5-5 その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として

◎ ①一般

◎ ②地反力を受ける(ごみ置場)

・ ③上載荷重が大きい場合とする。

梁の余長 l_1 の採用 大梁・小梁 ※ D' (梁有効部) ◎ 端部上下筋15d 中央上下筋20d
※ min(D' , L_e) ◎ 端部上下筋15d 中央上下筋20d

鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監督者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6 コンクリート工事

6-1 レディーミックスコンクリート(JIS A5308-2019)

1) セメント

◎ 普通ポルトランドセメントJSR5210

◎ 高炉セメントB種(基礎・地中梁)

※特別評価方法認定(高炉スラグの分量が質量比で45%以下のものに限る。)

・ 低熱ポルトランドセメントJSR5210

2) 粗骨材

・ 砂利

◎ 砕石

◎ 高炉スラグ骨材

・ 人工軽量骨材

・ 再生骨材

最大径(mm)

※ 20

・ 25

・ 40

3) 設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)

◎ 普通コンクリート

・ Fc18

◎ Fc21

◎ Fc24

◎ Fc27

・ Fc30

・ Fc

・ Fc

・ 軽量コンクリート(※ 1種 ・ 2種 気乾単位容積質量 ※ 18.5 ・)

・ LFc18

・ LFc21

・ LFc24

・ LFc27

・ LFc30

・ LFc

4)土間コンクリート

◎呼び18

気乾単位容積質量 ※ 18.5

5)捨てコンクリート

◎呼び18

6)防水押さえコンクリート

・Fc

・Lfc

気乾単位容積質量 ※ 18.5

7)かさ上げコンクリート

・Fc

・Lfc

気乾単位容積質量 ※ 18.5

6-2

混和材

※減水剤

◎高性能減水剤

・難防水材

・膨張材

注1)、混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇 所	基礎、基礎梁	一 般	土間コンクリート	壁面コンクリート	備 考
スラブ	cm 15	18	15	15	
水セメント比	% 50以下	50以下	65以下	65以下	60以下
単位水量	kg/m ³ 185以下	185以下	185以下	-	185以下
単位セメント量	kg/m ³ 320以上	320以上	300以上	270以上	270以上

注2)、スラブは特記なき限り施工者が決める監督者に報告する。

6-4

試験 (壁体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1)骨材

[

◎塩分含有量

◎アルカリシリカ反応性

]

※行う

・行わない

2)フレッシュコンクリート

[

◎スラブ

◎空気量

]

※行う

・行わない

3)壁体のせき板取り外し時期決定圧縮試験

※行う

・行わない

4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験

・行う

※行わない

5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析)

・行う

※行わない

6)単位水量測定

◎行う

・行わない

6-5

調合 (補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d

・短期(18)

◎標準(24)

・長期(30)

・超長期(36)

調合管理強度 F_m=Max{F_c, F_d}+S

S=3~6

材齢28日の調合強度Fは下記の式で満足するものとする。

F_d≥F_m+1.73σ

F_d≥0.85F_m+3σ

6-6

せき板及び支柱の位置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材料による場合	15℃以上 3 日	17 日	28 日
5℃以上	5 日	25 日	
0℃以上	8 日	28 日	

圧縮試験による場合 5N/mm²

注)0.85F_mまたは12N/mm²

注)設計基準強度

注) かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。

6-7

住宅性能表示

劣化等級

・等級2

◎等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さ

が変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する

6-8

F_c36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書(JASS5等)による

§ 7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規格名称	鋼 材 名	柱	通 し 内	大 梁	ア ー ム	小 梁
一般構造用圧延鋼材	◎ SS400	・				◎
溶接構造用圧延鋼材	・ SM400A	・ SM490A				
	・ SM400A	・				
建築構造用圧延鋼材	・ SM400B	・ SM490B				
	・ SM490C	・ SM490C				
一般構造用角形鋼管	・ STKR400	・ STKR490				
冷間成形角形鋼管	・ BCR295	・				
	・ BCP235	・ BCP325				
熱間成形角形鋼管	・ SHC400B	・ SHC400C				
	・ SHC490B	・ SHC490C				
一般構造用炭素鋼管	・ STK400	・ STK490				
一般構造用軽量鋼管	・ STKN400	・ STKN490				
建築構造用圧延鉄鋼	・ SMR400	・				

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	※ S10T 全般
JIS形高力ボルト	・ F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	◎ F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	・ S14T 屋内環境

7-3

普通ボルト、アンカーボルト

1)材質

◎SS400

・SS490(M 以上)

・ABR400

・ABR490

◎ABM400

・ABM490(ABMはM24以上)

2)大臣認定柱脚(メーカー仕様による)

・使用する

◎使用しない

7-4

隅付きスタッド

径	長 さ (mm)	使 用 箇 所
16 φ	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	
19 φ	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	
22 φ	・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	

7-5

溶接材料

1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6

スカラップ形状

※ノンスカラップ工法

・スカラップ工法

7-7

継手

	柱	梁
フランジ	・高力ボルト	・現場溶接
	※高力ボルト	・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト	・現場溶接
	※高力ボルト	・現場溶接

7-8	溶接手法及び管理 1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄協又は全鋼協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。 2) 完全溶け込み溶接はA種認定の有資格者が行うとする指定を ・ 行う ・ 行わない 3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技術者技能検定付加試験を ・ 行う ・ 行わない 但し、代替タブのA種認定有資格者は技能検定付加試験を免除する。																															
7-9	デッキプレート (単位 mm) 1) 床用 高さ ・ 板厚 ・ 2) 合成スラブ用 高さ ・ 板厚 ・ 3) 型枠用 高さ ・ 板厚 ・ 形板 タイプ 4) 防錆処理 ・ プライマー ・ 亜鉛メッキ ・ Z12 ・ Z27																															
7-10	塗装(工場塗 ※ 2回 ・ 1回、現場タッチアップ程度とする) 1) 素地調整 ※ ケレン ・ プラスト 2) 下塗り用塗料 <table><tr><th>適用</th><th>塗 料</th><th>種 別</th><th>標準膜厚</th></tr><tr><td>屋外 室内</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>※</td><td>鉛、クロムフリー錆止め</td><td>JISK5674</td><td>※ 1種 ※ 2種 30 μm</td></tr><tr><td>※</td><td>水系さび止めペイント</td><td>JASS18 M-111</td><td>30 μm</td></tr><tr><td>・</td><td>変性エポキシ樹脂プライマー</td><td>JASS18 M-109</td><td>・ 1種 ・ 2種 40 μm</td></tr><tr><td>・</td><td>有機シリコンタッチプライマー</td><td>JISK5552</td><td>・ 2種 15 μm</td></tr><tr><td>・</td><td>構造物用さび止めペイント</td><td>JISK5551</td><td>A種 30 μm</td></tr></table>				適用	塗 料	種 別	標準膜厚	屋外 室内				※	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	※ 1種 ※ 2種 30 μm	※	水系さび止めペイント	JASS18 M-111	30 μm	・	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	・ 1種 ・ 2種 40 μm	・	有機シリコンタッチプライマー	JISK5552	・ 2種 15 μm	・	構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30 μm
適用	塗 料	種 別	標準膜厚																													
屋外 室内																																
※	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	※ 1種 ※ 2種 30 μm																													
※	水系さび止めペイント	JASS18 M-111	30 μm																													
・	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	・ 1種 ・ 2種 40 μm																													
・	有機シリコンタッチプライマー	JISK5552	・ 2種 15 μm																													
・	構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30 μm																													
	3) 溶融亜鉛メッキ ◎ 行う ・ 行わない 4) 高温亜鉛メッキ ◎ 行う ・ 行わない 5) 高耐食メッキ鋼板 (1.3,2mm以下) ・ 用いる ・ 用いない																															
7-11	溶接部の検査(受入検査) ※ 行う ・ 行わない 1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。 2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるO1検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。 3) 受入検査は理想による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。 4) 外観検査の可否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6 鉄骨検査検査基準」の限界許容値による。 5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査標準・同解説」2018により、可否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。 6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。 7) 受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。 a) 工場溶接の場合 i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。 ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。 iii. 大きい30箇所のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30箇所のサンプルを抜き検査する。総計60箇所のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。 b) 現場溶接の場合 i. 全数検査とする。 8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。 9) ずれ・食違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。																															
7-12	鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと <table><tr><th colspan="5">国土交通省大臣認定(グレード)</th></tr><tr><td>S</td><td>H</td><td>M</td><td>R</td><td>①</td></tr></table>				国土交通省大臣認定(グレード)					S	H	M	R	①																		
国土交通省大臣認定(グレード)																																
S	H	M	R	①																												
§ 8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事																																
8-1	コンクリートブロック 1) 種類 ・ A 種 ・ B 種 ◎ C 種 2) 厚さ mm ・ 100 ・ 120 ◎ 150 ・ 190																															
8-2	ALC パネル 1) 使用箇所 ・ 床 ・ 屋根 ・ 外壁 ・ 内壁 2) 厚さ mm ・ 75 (80) ・ 100 ・ 120(125) ・ 150 ・ 175 3) 外壁取り付け構法 <table><tr><th>方 向</th><th>構 法</th><th>使 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>縦</td><td>・ ロッキング構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td>横</td><td>・ アンカー構法</td><td></td><td></td></tr></table>				方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考	縦	・ ロッキング構法			横	・ アンカー構法																		
方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考																													
縦	・ ロッキング構法																															
横	・ アンカー構法																															
8-3	押出成形セメント板 外壁取付方法及び厚さ mm <table><tr><th>方 向</th><th>構 法</th><th>使 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>縦</td><td>・ ロッキング構法</td><td></td><td></td></tr><tr><td>横</td><td>・ スライド構法</td><td></td><td></td></tr></table>				方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考	縦	・ ロッキング構法			横	・ スライド構法																		
方 向	構 法	使 用 箇 所	備 考																													
縦	・ ロッキング構法																															
横	・ スライド構法																															
8-4	PCa板 1) 床及び屋根 ・ 床 ・ 屋根 ・ PCa板単独 厚さ mm ・ ・ 合成板 <table><tr><th>PCa板厚さ mm</th><th>現場厚さ mm</th><th>合計厚さ mm</th><th>備 考</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 2) 外壁 厚さ mm ・				PCa板厚さ mm	現場厚さ mm	合計厚さ mm	備 考																								
PCa板厚さ mm	現場厚さ mm	合計厚さ mm	備 考																													
§ 9 施工計画																																
コンクリートの充填方法等 9-1 打込み締固め方法(JASS5による) 1) JISAS8610コンクリート棒型振動機を使用し、密実に充填する。 9-2 打継ぎ部の処理方法(JASS5による) 1) 打継ぎ面を鉄筋と垂直にする。 2) 構造物材の耐力低下が少なく、かつ打継ぎ部の処理が円滑に行える形状とする。 3) 打継ぎ部の鉄筋は連続している。(EXP-Jを除く) 9-3 養生方法 1) JASS5による。																																

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fasa-net.jp

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205

FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

2024年2月1日作成 (不許複製)

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	構造特記仕様書		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / O 1	
原寸法			
一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠 構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠			

- 令第129条の2の3の事項
- ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。
- ・建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■ 建築設備（昇降機を除く。）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、

■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

■ 建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。

■ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあっては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

■ 給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

満水時の質量が15Kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

※「給湯設備」：建設物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

〈販売元〉一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://www.fasa-net.jp

〈発行元〉一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL(06)6763-8205 FAX(06)6763-8206

http://www.kse-web.com/

2024年2月1日作成

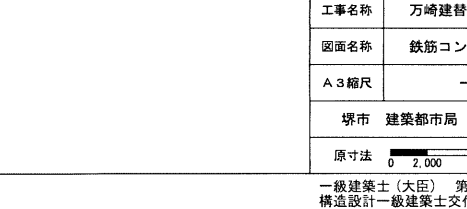
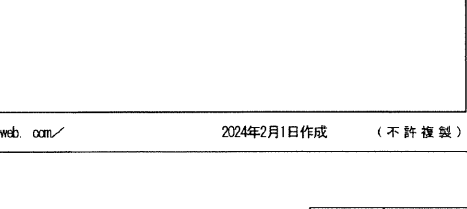
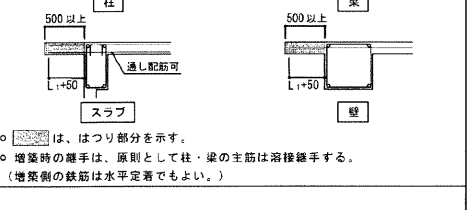
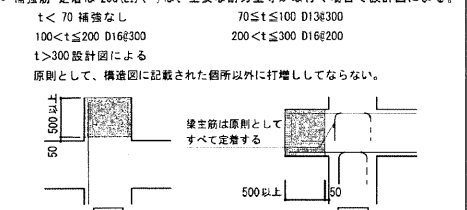
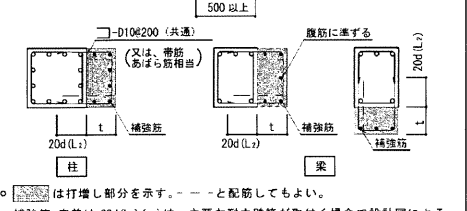
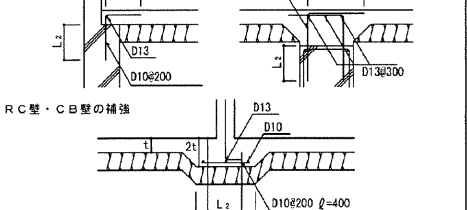
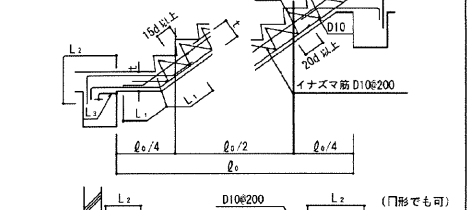
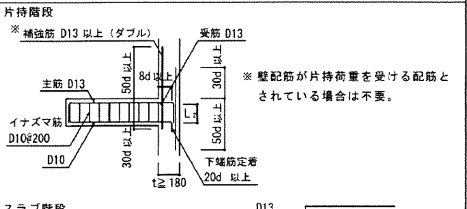
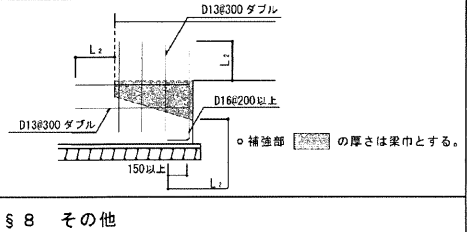
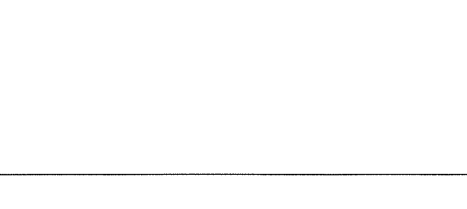
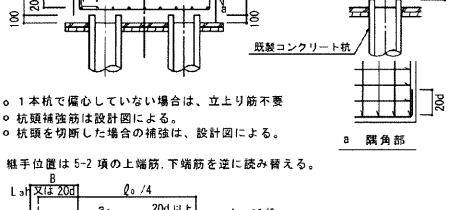
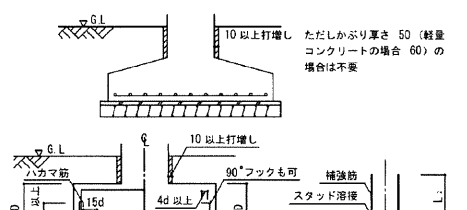
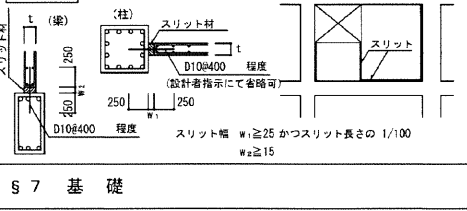
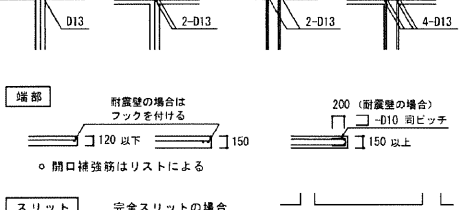
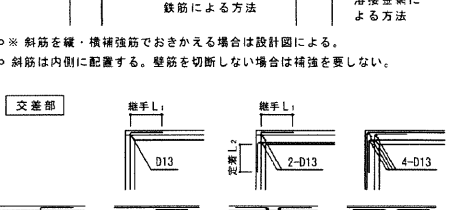
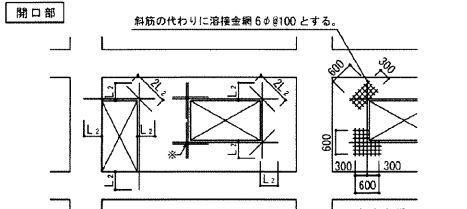
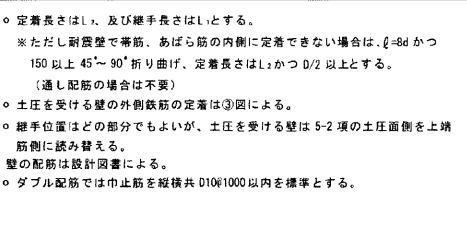
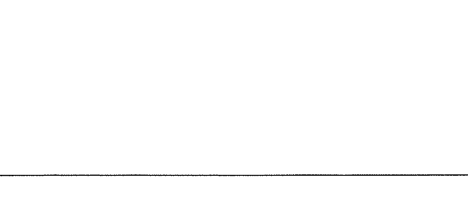
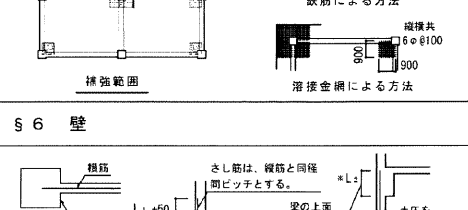
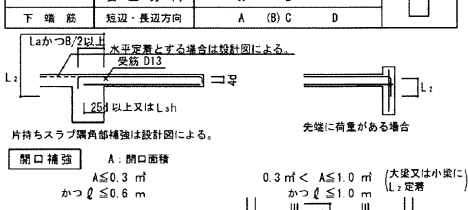
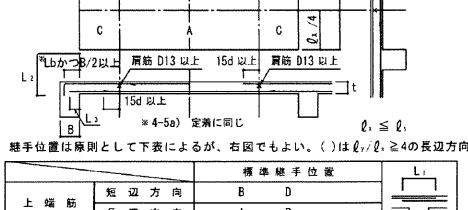
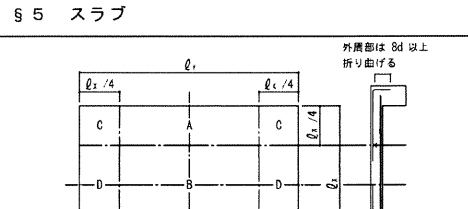
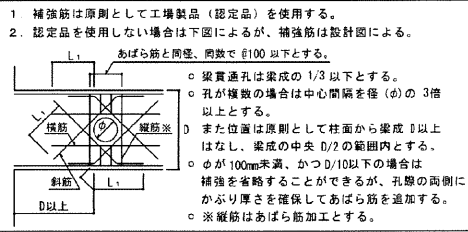
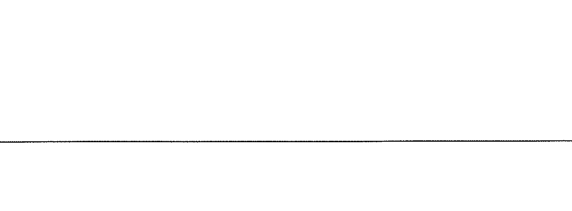
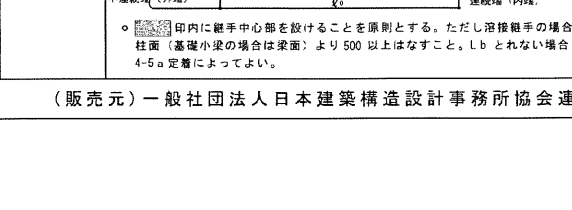
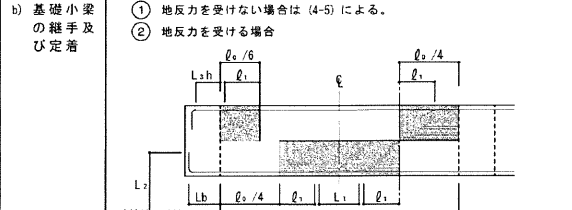
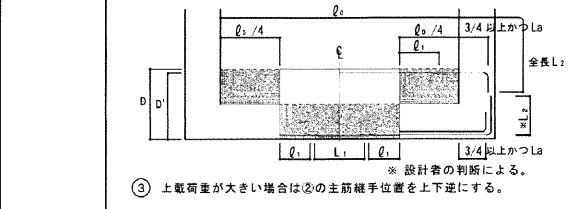
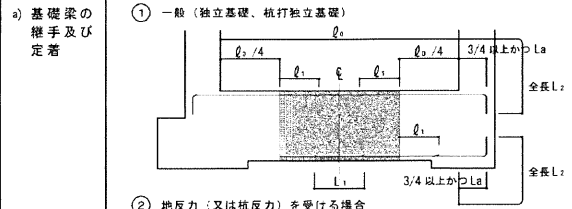
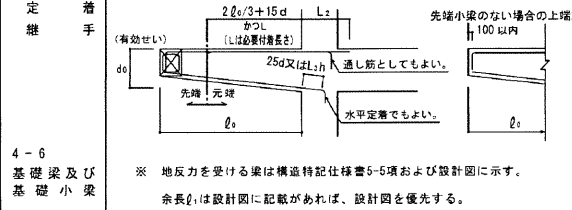
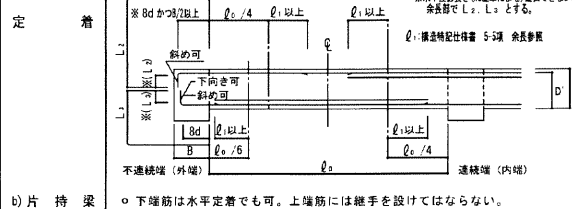
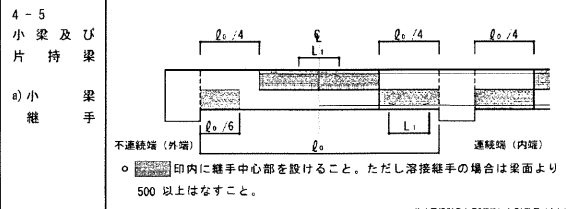
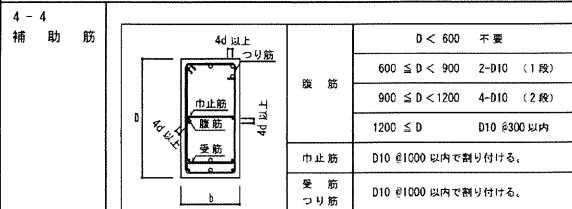
(不許複製)

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	設備工事構造特記仕様書		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市	建築都市局	建築部	図面番号 S / 02
原寸法	02,0005,00010,00015,00020,000mm		

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠

構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2) 2024年度版



(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fasa-net.jp

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205

FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

2024年2月1日作成

(不許複製)

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S / 04
原寸法			

一級建築士(大匠) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

高強度せん断補強筋施工仕様書2024年度版	
1-1 適用範囲	§ 1 一般事項
	本仕様書は鉄筋コンクリート造の梁及び柱のせん断補強筋（スパイラル筋、中子筋付スパイラル筋、溶接閉鎖形筋及びフック付筋）として使用される高強度鋼棒によるあばら筋及び帯筋の施工に適用する。この仕様書に記載していない事項に関しては「JASS5」及び「メーカーの一般認定書」によるものとする。 ただし、コンクリートの設計基準強度は $F_c21N/mm^2 \sim F_c60N/mm^2$ の普通コンクリートに適用する。 JISA5308から外れるコンクリートを使用する場合は、別途仕様書による。 御向山工場の MK785 は梁成1.5m以上の曲げ降伏しない基礎梁に重ね継手を使用できる。5-3 4) 参照
1-2 その他	
2-1 材 種	§ 2 材 料
	1) JIS G 3137 「縦径異形P.C鋼棒」SBPD 1275/ 1420 に相当する 1275N/mm ² 級のP.C鋼棒 2) 低合金キルド鋼を熱間異形圧延し、制御冷却し、必要に応じて熱処理した鉄材コイルを素材として、冷間直線矯正加工を施して製造された 785N/mm ² 級の鋼棒 (KSS785, KW785)
	3) 成分調整したキルド鋼の鋼塊から熱間圧延によって製造された 685N/mm ² , 785N/mm ² 級の鋼棒 (SHD685, SHR685, KH785, SPR785, MK785, OT685, JH785, KH685, USD685, GSD685) (表1)
	2-2 呼び名 断面形状
2-3 機械的性質	表1
	表2
	表3
	表4
2-4 図 示 記 号	
3-1 曲 げ 加 工 溶 接	§ 3 加 工
	曲げ加工及び溶接は、一般許定条件に従って行わねばならない。 1275N/mm ² 級は高周波熱溶接、JFEテクノワイヤ鋼 785N/mm ² 級は御神戸製鋼、住友電気工業、新日鐵住金、KSS785、JFEテクノワイヤ、KW785、東京製鋼、SPR785、御岸鋼加工 (旧 岸和田金鋼) KH785、御向山工場 MK785、JFE条鋼、JH785 685N/mm ² 級は北越金属材料 SHD685、SHR685、大谷製鉄、OT685、御岸鋼加工 (旧 岸和田金鋼) KH685、共英製鋼、USD685、合同製鋼、GSD685
3-2 曲 げ 角 度 余 長	表3

3-3 加工寸法 加工形状	(表4)
	表4
4-1 保 管	§ 4 保管及び清掃
	せん断補強筋は直接地上に置くことを避ける。又、雨・潮風等にさらされず、ごみ、泥油等で汚さない様に保管する。
4-2 清 掃	せん断補強筋は組み立てに先立ち、浮き錆・油類・ごみ・泥等コンクリートとの付着を妨げるおそれのあるものは除去する。
5-1 組 み 立 て	§ 5 組み立て
	せん断補強筋は設計図及び施工図に従い正しく配筋し、コンクリートの打ち込み完了まで移動しない様十分堅固に組み立てる。
5-2 末 端 処 理	フック付単筋を用いる場合はフック位置を交互に配置する。 溶接閉鎖形筋の溶接面は交互に配置する。
	表5

5-3 継 手	5-4 スパイラル筋 (又は溶接筋) と中子筋の 併用	5-5 あ ば ら 筋
5-6 注 意 事 項		
6-1 注 意 事 項		
6-2 配筋の検査		
6-3 梁貫通補強		
§ 6 その他		
6-4 梁貫通補強		

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 <http://fasa-net.jp>

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL (06) 6763-8205

FAX (06) 6763-8206

<http://www.kss-web.com/>

2024年2月1日作成

(不許複製)

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	高強度せん断補強筋施工仕様書		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S / O 5
原寸法			

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

§ 1	一般事項
-----	------

- 1) 本標準図に記載なき事項は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図による。
- 2) 耐久性上有効な仕上げのない壁（屋内、屋外共）及び土に接する壁は10以上増打ちする。
- 3) 特記なき限り組骨材は最大径 $\phi 80$ とする。

2 - 1
標準配筋リスト

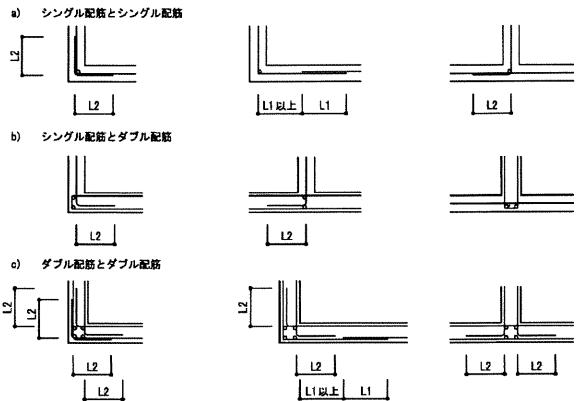
2-1 標準記録リスト	符 号	厚 さ	編 織、機 織	開口補強筋

- 1) 特記なき配筋は上表によるが、壁の厚さは50によるが、変形を許ける事が望ましい。
- 2) ()内は開口部の高さhが1000の場合を示す。
- 3) (S)はシングル配筋、(D)はダブル配筋を示す。
- 4) ダブル配筋の仕方は、D10-100以内を標準とする。
- 5) 開口部増設の換気（壁受主）は設計図によるが、特記のない場合は断壁に準じ、あばら筋は壁筋と同じとする。
- 6) 壁受主は設計図に配筋なき場合は下表による。
- 7) 地下室のある場合は設計図による。
- 8) ②-2-013の代わりに①-019とすることができる。
- 9) ②-2-019の代わりに②-016+②-013とすることができる。
- 10) 鉄筋底の配筋が困難な場合は、断壁構造に置き換えてもよい。

2-2
標準壁配置

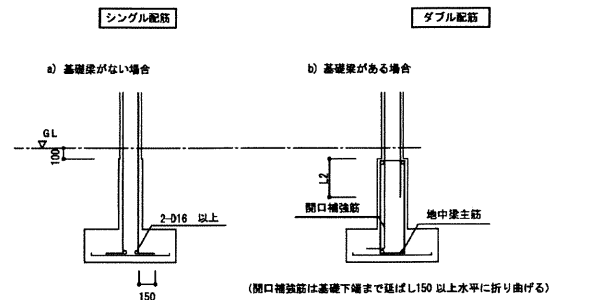
3 - 1 $\phi \leq 1500$ の壁は柱の帯筋に準じて配筋する。

3-2 壁に対する定着

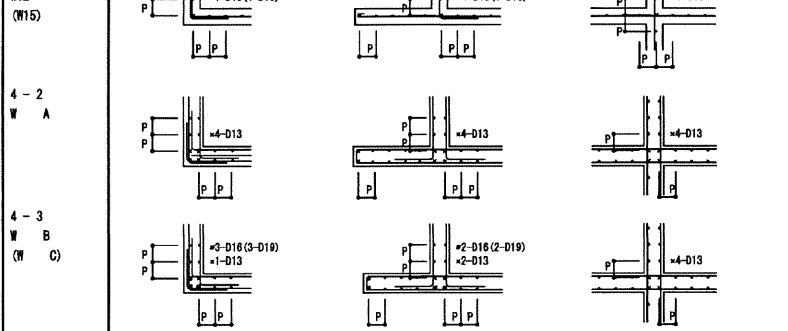


3-3 頂部の定着

3-4
基礎に対する
定 着

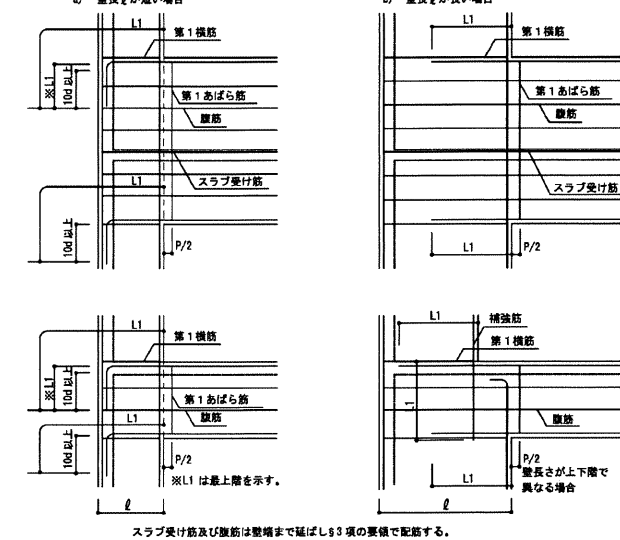


4 - 1
W12



繼手、定着

5-1 定 額 表

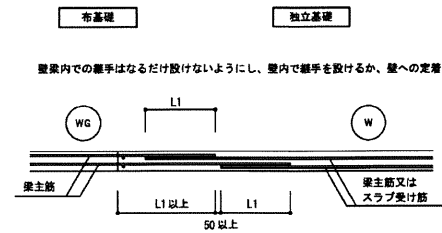


5 - 2
継 手

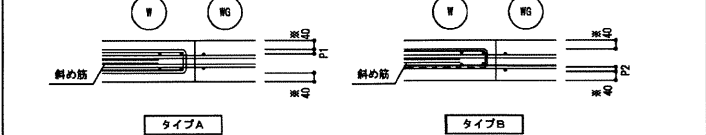
5 - 3
そ の 他

6-1
配筋タイプ

6-2
タイプ別
壁厚表



- 1) 隣接の家と同一レベルの場合は通し配管とするが、壁長が非常に大きい場合の定着は1のみとしてもよいが、主筋がスラブレベルと同じ場合は5-2スラブ受け筋との兼ねとする。
- 2) スラブ受け筋は、ダブル配筋の場合は2-013、シングル配筋の場合は1-013とし壁筋の要領で定着する。又壁梁のない場合も配筋する。
- 3) 廊下は壁の構造と同様、同ピッチとする。



配筋タイプ別による壁厚表 (mm)									
		タイプA			タイプB				
壁曲げ補強筋	側の筋	梁主筋			梁主筋				
		D13	D16	D19	D13	D16	D19		
		D13	D10	190	195	205	185	190	195
		D16	D13	195	205	215	190	200	205
		D19	D16	200	210	220	200	210	210

- | 壁 補 強 筋 | | 垂 束 主 筋 | | |
|---|-----|---------|-----|----|
| 
壁横筋 D10 | D1 | P1 | P2 | |
| | D13 | 20 | D13 | 26 |
| | D16 | 22 | D16 | 26 |
| | D19 | 23 | D19 | 26 |
| | | | | |
| 
あばら筋 D10 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

2024年2月1日作成 (不許複製)

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

Hyper-MEGA工法(膨張型) 特記仕様書

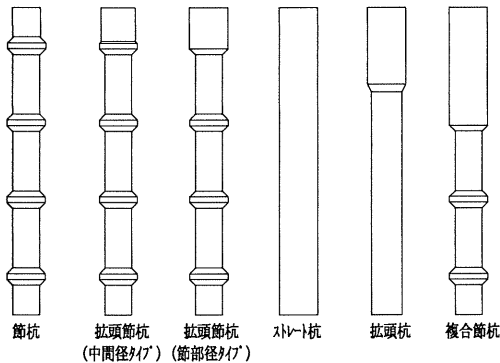
1. 一般事項

- 1) 本工事に採用する工法は「Hyper-MEGA工法」(認定番号：TACP-0527号, TACP-0528号, TACP-0529号)とする。
- 2) 工事着手前に、工事概要・工程・使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を作成し、監督員の承認を得る。
- 3) 工事施工者および管理者は、ジャパンパイル株式会社もしくはジャパンパイル株式会社が承認した施工会社とする。ただし、後者の場合でも地盤の許容支持力については、ジャパンパイル株式会社が責任を負う。

2. 使用杭

- 1) 杭の構造
使用する杭は下記のものとする。
①平成13年国土交通省告示第1113号8号第二号、第三号、第四号、第五号及び第六号の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリート杭。
②建築基準法施工令第90条、平成12年国土交通省告示第2464号第1、第2に基づき鋼材の許容応力度が規定された鋼管。
- 2) 杭の構成
節杭(拡張節杭を含む)のみ、または節杭(拡張節杭を含む)とこの上方に継いで使用するスリート杭(拡張杭を含む)により基礎杭を構成する。なお、下杭には必ず節杭(拡張節杭を含む)を使用する。
- 3) 杭径
①節杭(拡張節杭を含む)の径は、以下のとおりである。
節部径 φ440～φ1200mm
軸部径 φ300～φ1000mm
②スリート杭(拡張杭を含む)の径は、以下のとおりである。
杭径 φ298.4～φ1200mm

- 4) 杭姿図
使用する杭の姿図の例を示す。



- 5) 最大施工深さ
最大施工深さは、先端地盤が砂質地盤の場合は杭施工地盤面－68.5m、先端地盤が礫質地盤の場合は杭施工地盤面－68.5m、先端地盤が粘土質地盤の場合は杭施工地盤面－60.0mとする。

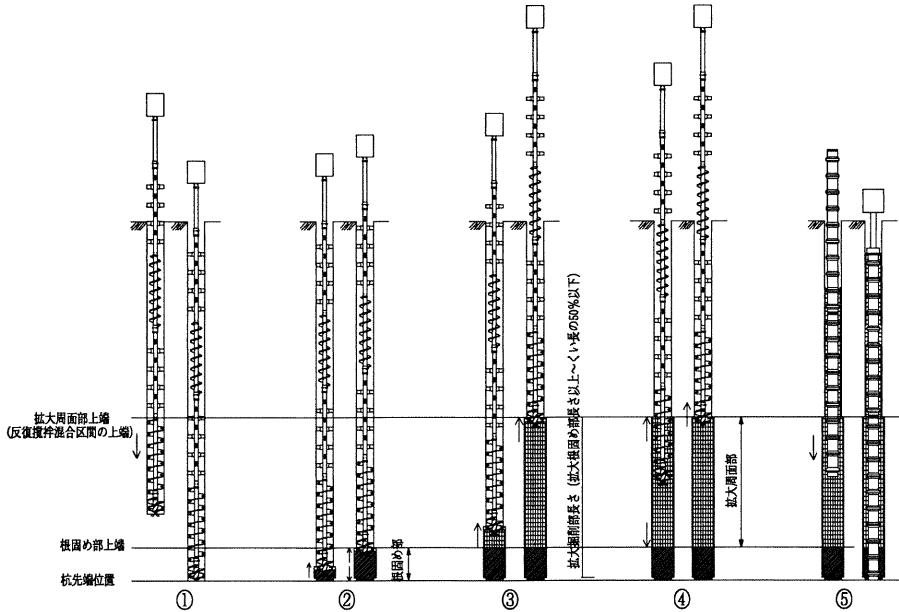
3. 試験杭

- 1) 試験杭は、本工事に先立ち、設計・施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 2) 試験杭の位置および数量は、設計図書による。なお、地盤調査・敷地状況・建築物の平面計画等を考慮し、設計者・監督員と協議して決定する。
- 3) 試験杭では、本工事と同一寸法の杭、本工事に使用予定の機械器具を用いることを原則とし、次の項目について確認する。
 1. 施工能率
 2. 使用機械・設備の適否
 3. 掘削液と充填液の配合・使用量の適否
 4. 地盤の構成(逸水の有無、地中障害の有無)
 5. 先端地盤の確認
 6. 根固め部の品質管理
 7. 高止まりの有無

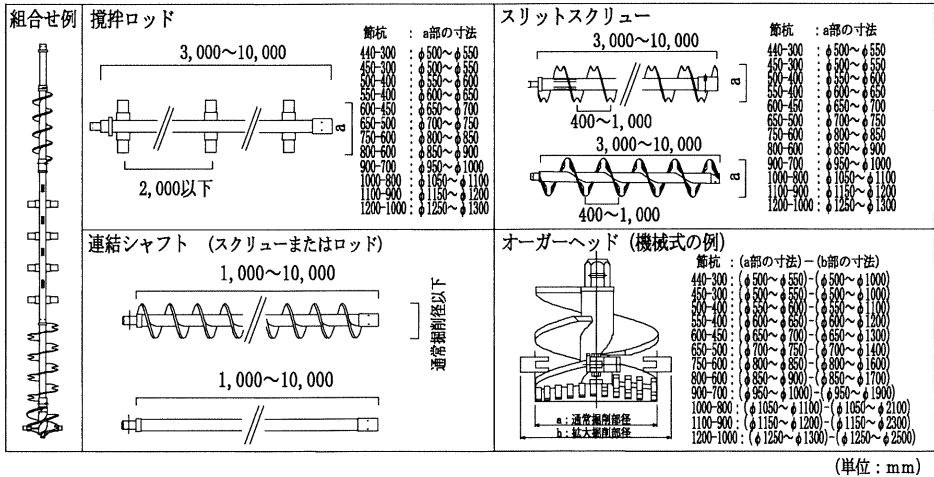
4. 施工方法

代表的な施工手順(拡張作業を伴い拡大掘削長が杭長の30%以上の場合)を下図に示し、概要を以下に記述する。

- ①杭心セッ～掘削
杭打ち機を所定の位置に据え付け、拡大ヘッドを杭心に合わせ掘削心及び鉛直性を確認しつつ、適宜、掘削液を送りながら地盤に適した速度で所定の位置まで掘削する。
 - ②掘削完了～根固め部築造
所定深度まで掘削後、拡大ヘッドの拡大翼を拡張し、根固め液を注入しながら根固め部範囲において地盤の種類に応じた注入方法で根固め部を築造する。
 - ③杭周充填液注入
根固め部上端から膨張材を用いた杭周充填液を注入しながら、所定の範囲を拡大掘削する。
 - ④攪拌混合～掘削装置の引き上げ
掘削装置を上下反復して、杭周充填液と掘削土砂を攪拌混合する。攪拌混合終了後、拡大翼を閉塞して掘削装置を引き上げる。
 - ⑤杭の建て込み
掘削孔内に鉛直性を確認しながら杭を建て込む。杭の自重による建て込み後、回転圧入、またはモンテンで圧入・軽打することにより、所定の深度まで杭を定着させる。なお、継杭の場合(溶接継手または機械式継手の場合)は、下杭を保持装置等で保持し、上下の杭の鉛直性を確認して接続し、その後に杭を建て込む。
- なお、試験掘削または試験杭の結果や地盤状況に応じて、0～0.5m範囲で余掘りを行う場合がある。また、地盤状況に応じて充填液(根固め液、杭周充填液)の注入攪拌前に拡張作業を行う場合がある。



5. 掘削装置の形状および寸法



6. 充填材の配合と管理

- 1) 材料
①セメントは、普通ポルトランドセメントまたは高炉セメントB種を用いる。
②練り混ぜに使用する水は、上水道水またはセメント硬化に悪影響のない水とする。
- 2) 杭周充填液
杭周充填液は、杭体と地盤とを一体化させ、膨張材の効果により杭周面摩擦抵抗を大きく発現させる目的で注入し、水固化材比は85%以下とする。
杭周充填液の標準配合(対象土1m³あたり)を下表に示す。

セメント種	膨張材種	水固化材比 W/(C+K) (%)	膨張材置換率 K/(C+K) (%)	セメント C (kg)	膨張材 K (kg)	水 W (%)	注入量 (m ³)
普通ポルトランドセメント	無水石膏	85	6	269	17	243	0.334
	二水石膏		8	262	23	241	0.334
高炉セメントB種	無水石膏		7	264	20	241	0.334
	二水石膏		9	257	25	239	0.334

*セメント：比重3.15(普通ポルトランドセメント)、比重3.05(高炉セメントB種)の場合
膨張材：比重2.9(無水石膏)、2.31(二水石膏)の場合

- 3) 根固め液
杭先端部に、先端支持力を確保するために根固め部の体積量以上を注入し、杭先端平均N値($\bar{N}$)と拡大比(ω)に応じて、水セメント比は下記の値以下とする。

拡大比	水セメント比		
	$\bar{N} \leq 20$	$20 < \bar{N} \leq 40$	$40 < \bar{N}$
$1.0 \leq \omega \leq 1.25$	100%	85%	65%
$1.25 < \omega \leq 1.75$	85%	60%	60%
$1.75 < \omega \leq 2.0$	85%	60%	55%

- 4) 強度の管理
管理試験は、充填液について下表により行う。

杭の種類	回数	
	1本毎	
本杭	継ぎ手のある場合	20本またはその端数につき1回
	継ぎ手のない場合	30本またはその端数につき1回

1. 1回の試験の、供試体の数は杭周充填液および根固め液を各3本とする。
2. 供試体は、(公社)土木学会「コンクリート標準示方書(規準編)」のPCグラウトのブリーディング率および膨張率試験方法によるポリエチレン袋、(一社)コンクリートパイル建設技術協会「埋込工法に用いる根固め液及び杭周固定液の圧縮強度試験方法」によるポリエチレン袋、またはこれと同等な袋を用いて、グラウトプラントより採取し、直径50mm・高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。
3. 強度試験は、JIS A 1108(コンクリートの圧縮試験方法)による。
4. 充填液の圧縮強さは、材齢28日とし、1回の試験の平均値は下表により管理する。なお、個々の値は、管理値の85%以上の値にて管理する。

杭周充填液	根固め液			
	拡大比	$\bar{N} \leq 20$	$20 < \bar{N} \leq 40$	$40 < \bar{N}$
10N/mm ² 以上	$1.0 \leq \omega \leq 1.25$	10N/mm ² 以上	17N/mm ² 以上	22N/mm ² 以上
	$1.25 < \omega \leq 1.75$	17N/mm ² 以上	25N/mm ² 以上	25N/mm ² 以上
	$1.75 < \omega \leq 2.0$	17N/mm ² 以上	25N/mm ² 以上	30N/mm ² 以上

- 5) 充填液の密度管理
①杭周充填液および根固め液の密度測定を1日1回以上行う。
②計量・練り混ぜ及び計測のばらつきを考慮し、かつ、所定の圧縮強度が得られるよう、測定結果が計算密度の1～+3%の範囲であることを確認する。

7. 施工記録

1. 工事概要・組織
2. 実施工程表
3. 使用杭の仕様・諸元
4. 施工方法概要
5. 施工機械の仕様
6. 充填液の材料・配合・使用量・試験結果
7. 試験杭または試験掘削の記録
8. 本杭施工記録
9. 杭配置図
10. 地盤調査結果
11. その他必要事項

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	Hyper-MEGA工法 特記仕様書		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S / 07
原寸法	02,0005,00010,00015,00020,000mm		

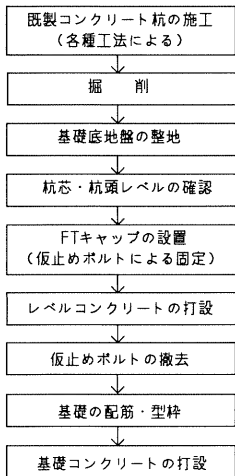
■構法概要

1. 本構法は、地震時の杭基礎の損傷低減を目的とした杭頭接合方法であり、既製コンクリート杭に用いる。
2. 杭頭を基礎（パイルキャップ）へ50～150mmの範囲で埋め込み、埋め込み部分において杭外周部とパイルキャップの界面にテーバー状のクリアランスを設ける。
3. 杭頭接合方法は、地震時に杭頭に引抜き力が作用しない箇所に適用する標準タイプと、引抜き力が作用する箇所にも適用できる引抜き対応タイプの2タイプがある。

■使用材料（適用範囲）

- ・杭 ： 各種の既製コンクリート杭（PHC杭、SC杭、PRC杭、RC杭 等）
- ・杭径 ： 300mm～1200mm
- ・コンクリート（基礎（パイルキャップ）部） ： 普通コンクリート 設計基準強度：18～60 N/mm²
（法第37条第一号もしくは第二号に該当するコンクリート）

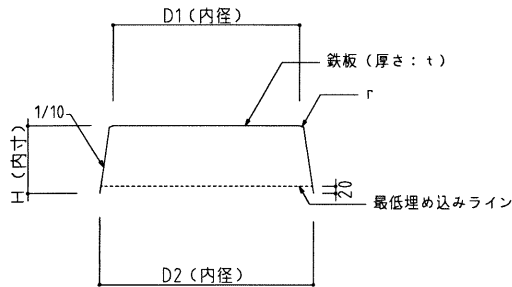
■施工手順



＊留意事項

- ・施工開始前に施工計画書を作成し、工事監理者の承認を得ること。
- ・F.T.Pile構法の施工は、FTキャップ設置前にパイルメーカーによる施工説明・指導を受けた後、実施する。
- ・FTPの刻印があるFTキャップ（テーバー型枠）を使用すること。
- ・FTキャップの受入時にはFTPの刻印と変形や損傷の有無を確認する。
- ・既製コンクリート杭の設置に先立ち、杭頭の端板のボルト孔に泥土が入らないように養生を行う。
- ・杭頭レベルの誤差が品質管理許容差を超えた場合には、工事監理者・設計者と協議のこと。
- ・FTキャップを設置する際は、杭周囲の碎石等のレベルが周辺よりも高くなっていないことを確認する。
- ・FTキャップ設置後に木杵等でFTキャップを軽打し、端板との間に小石・砂等により、浮き・隙間が生じていないか確認する。
- ・レベルコンクリート打設前にFTキャップの最低埋め込みラインが隠れるまで碎石または現地発生土に埋め込まれているか目視確認する。
- ・仮止めボルトは、レベルコンクリート硬化後に撤去する。
- ・FTキャップの上には原則として基礎配筋用のスペーサー等を置かないこと。
- ・施工完了後、施工結果を「施工チェックシート」に記録し、工事監理者に提出すること。

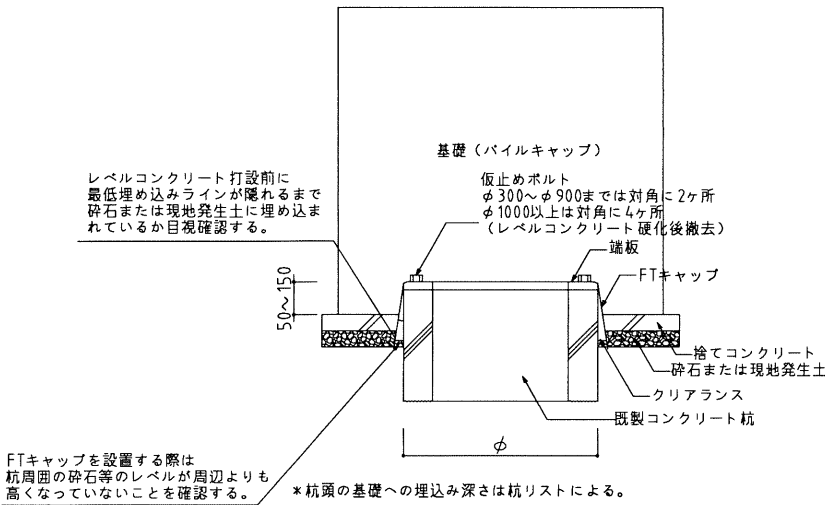
■FTキャップ（テーバー型枠）仕様



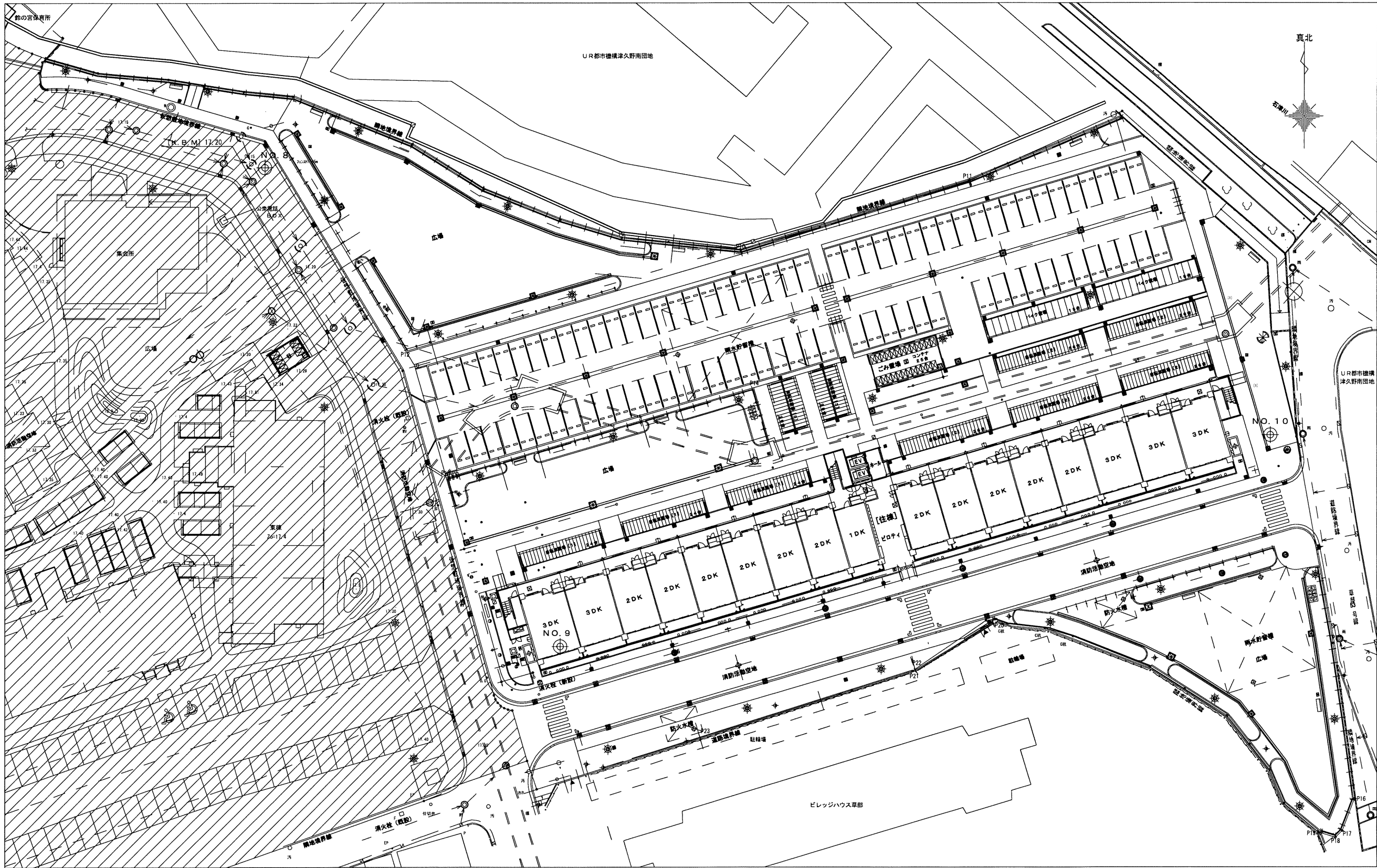
杭径：φ	鉄板厚さ：t (mm)	D1(mm)	D2(mm)	H (mm)	r(mm)	W(kg)
300	1.2	301	345	201	2.0	1.8
350	1.2	351	395	201	2.0	2.3
400	1.2	401	445	201	2.0	2.7
450	1.2	451	495	201	2.0	3.2
500	1.2	501	545	201	2.0	3.8
600	1.6	601	645	201	2.0	7.2
700	1.6	701	745	201	2.0	9.0
800	2.0	801	845	201	2.0	13.8
900	2.0	901	945	201	2.0	17.4
1000	2.3	1001	1045	201	2.0	23.9
1100	3.2	1101	1145	201	2.0	38.6
1200	3.2	1201	1245	201	2.0	44.3

- ＊FTキャップの品質管理は製作工場で行われているため、施工時には下記の確認を行う。
- ・FTキャップに「FTP」の刻印があること。
 - ・FTキャップに変形や損傷がないこと。

■杭頭部詳細図



工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	F.T.Pile構法 既製コンクリート杭		
A3縮尺	—	A1縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / 08	
原寸法			



地盤調査位置図

設計GL=TP+17.35m

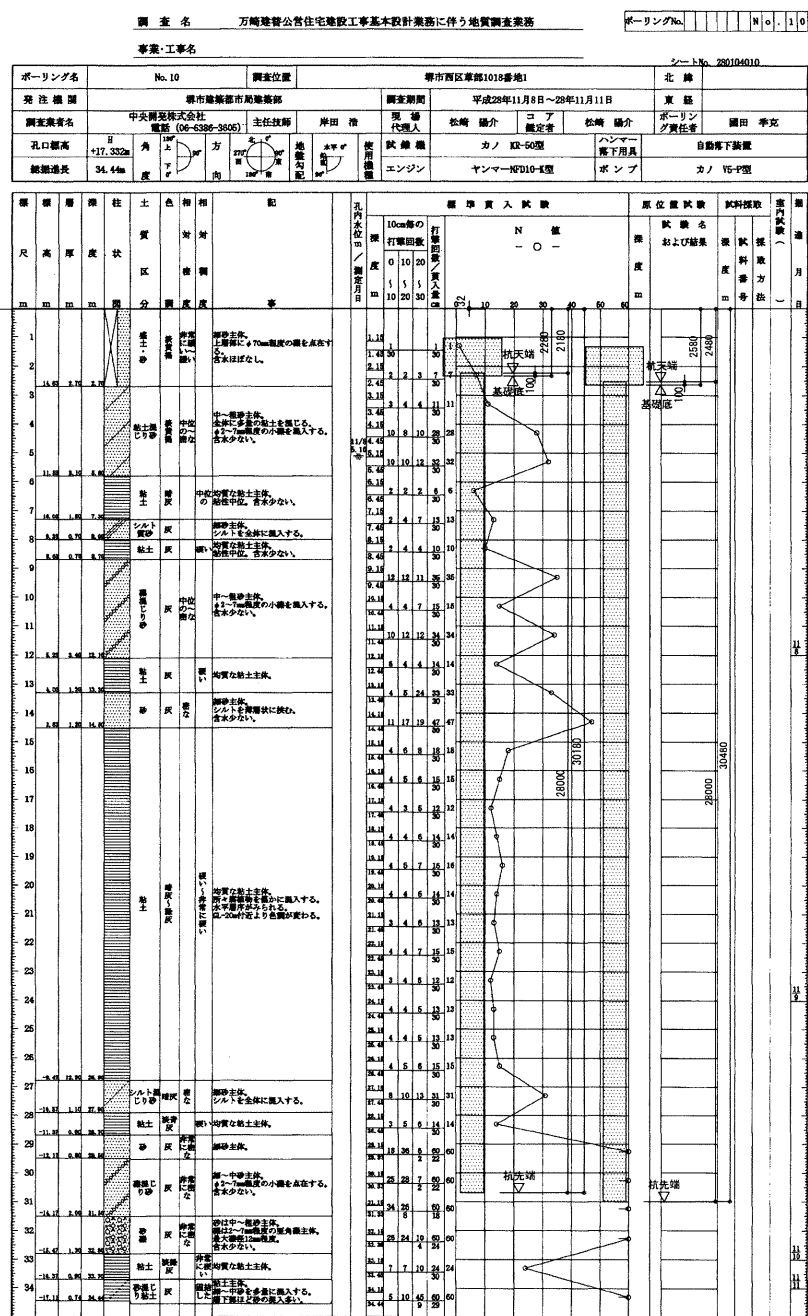
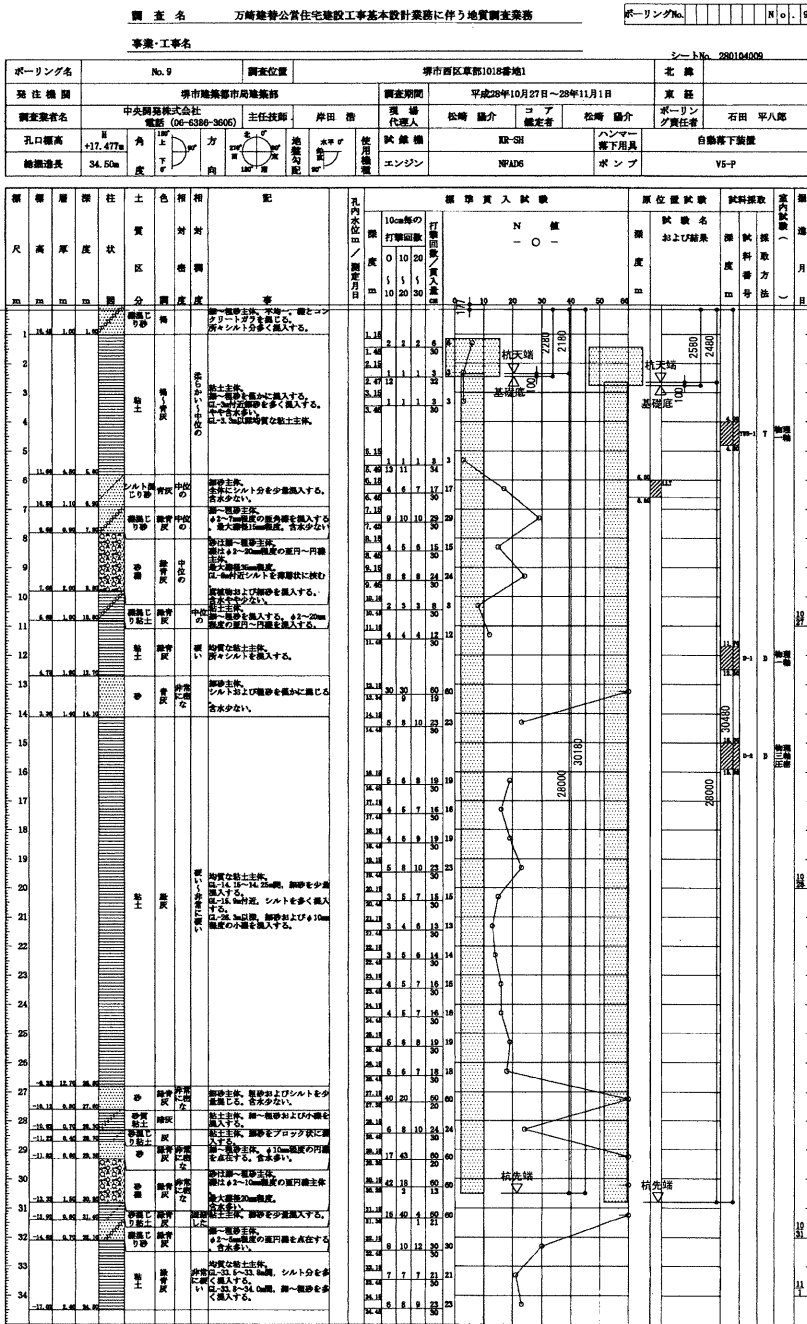
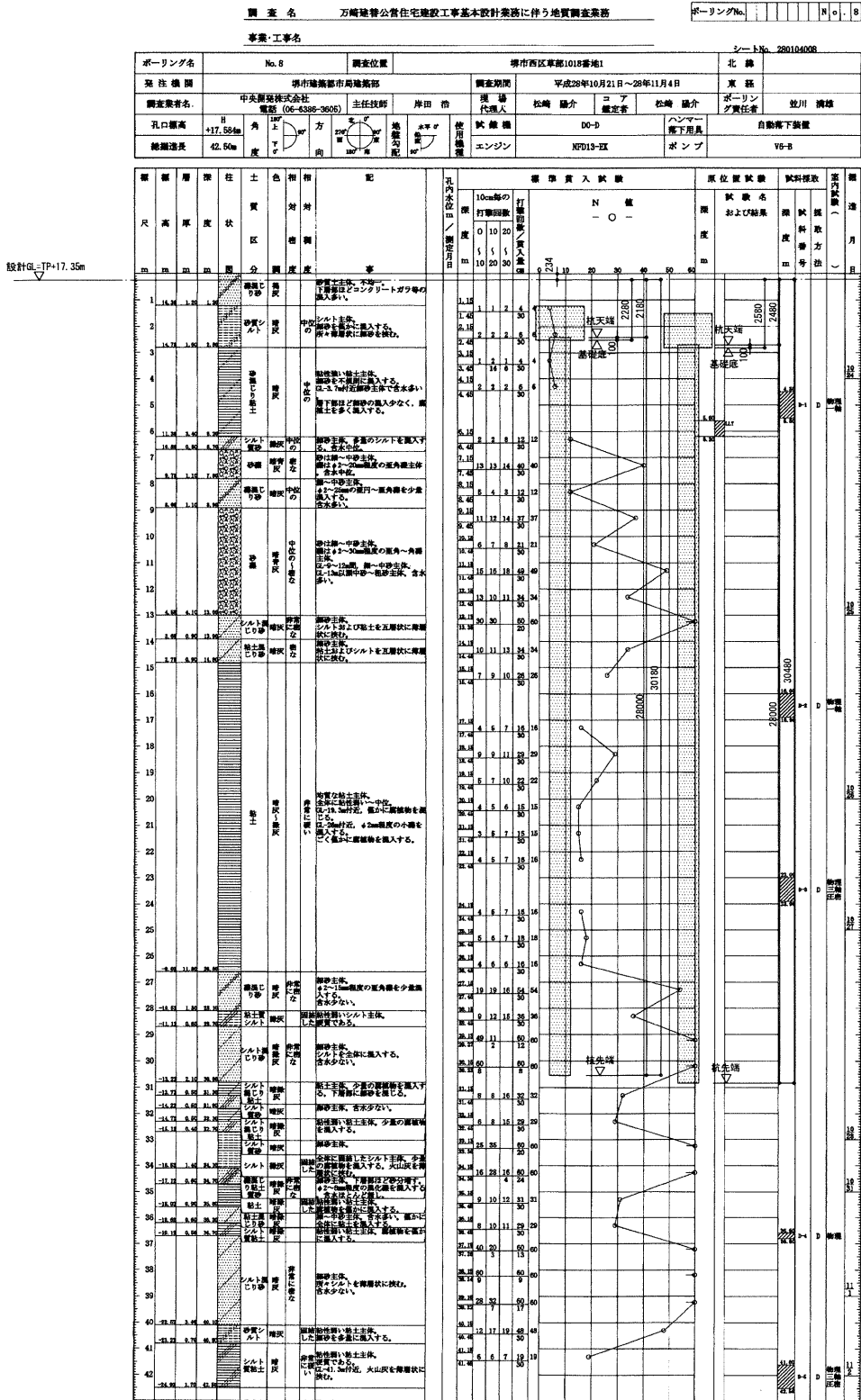
工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	ボーリング柱状図 (1)		
A 3縮尺	—	A 1縮尺	—
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S / 09
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		

一級建築士 (大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

ボーリング柱状図

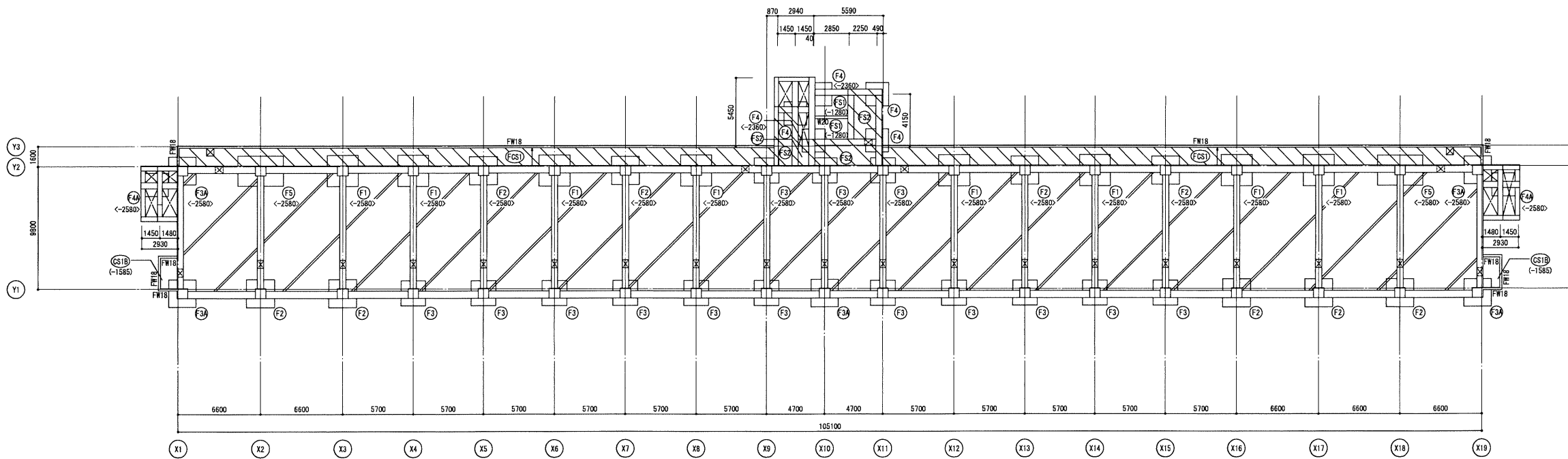
ボーリング柱状図

ボーリング柱状図



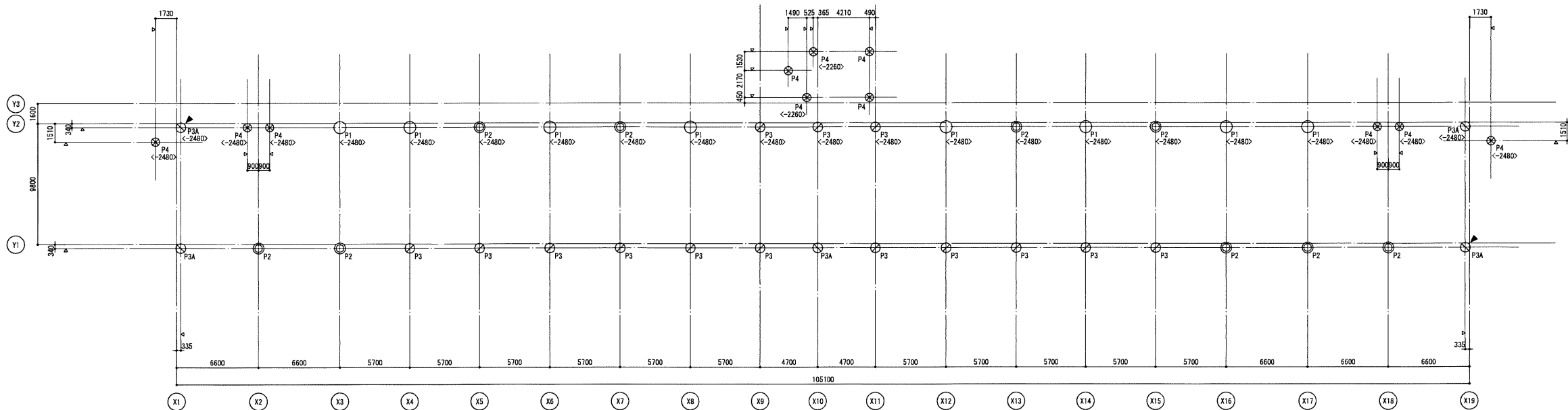
工事名称	万崎建設公営住宅第2期建設工事		
図面名称	ボーリング柱状図 (2)		
A 3 縮尺	—	A 1 縮尺	—
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / 1 0	
原寸法			

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠



基礎・ピット 伏図 1/200

- 【注記】 ・特記なきは下記による。
- ・基礎下地は設計値-2.280とする。
 - ・〈 〉 内数値は設計値からの基礎下地を示す。
 - ・（ ） 内数値は1SLからのスラブ天を示す。
 - ・表示は、積てコンクリート（無筋コンクリート t=100）を示し、スラブ天=1SL-1.585～1.690とする。
 - ・表示は、スラブ天=1SL-1.710～1.740とする。
 - ・表示はスラブ勾配を示す。
 - ・表示は、埋戻し範囲を示す。
 - ・印は人通孔(600φ)を示す。
 - ・印は蓋場(600x600x600)を示す。



杭 伏図 1/200

- 【注記】 ・特記なきは下記による。
- ・設計GL=+17.35m
 - ・杭天端は設計値-2.180とする。
 - ・柱芯=杭芯とする。
 - ・〈 〉 内数値は設計GLからの杭天端を示す。
 - ・△印は杭芯を示す。
 - ・▲印は試験杭（2ヶ所）を示す。
 - ・杭工法杭長等は試験杭の結果により監理者と協議の上、最終決定する。
 - ・杭施工により偏心が生じた場合、杭の偏心量を監理者に報告し、計算により補強位置、補強量を定める。

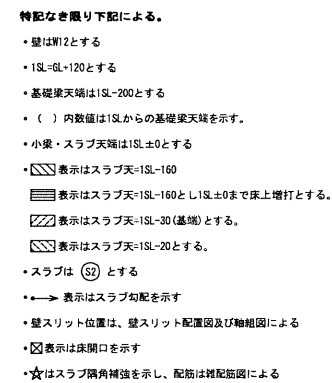
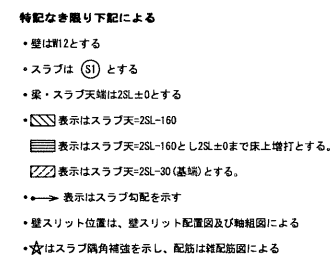
杭リスト		・工法：Hyper-MEGA工法(膨張型) 【砂質地盤：TACP-0527 硬質地盤：TACP-0528 粘土質地盤：TACP-0529】 ・拡大比 ω=1.00											
記号	符号	杭径	長期許容 支持力 (kN)	杭長	上 杭		中 杭		下 杭		本数	杭頭接合方法	仕様
					杭 種	杭長	杭 種	杭長	杭 種	杭長			
○	P1	1000φ	6,200	28 m	JP-HSC φ1000 (SKK490 t=9 105N)	5 m	JP-NPH φ1200-1000 (C種 105N)	11m	JP-NPH φ1200-1000 (A種 105N)	12m	8	F.T.Pile構法	標準タイプ
◎	P2	900φ	5,400	28 m	JP-HSC φ900 (SKK490 t=9 105N)	5 m	JP-NPH φ1100-900 (C種 105N)	11m	JP-NPH φ1100-900 (A種 105N)	12m	9	F.T.Pile構法	標準タイプ
⊙	P3	800φ	4,800	28 m	JP-HSC φ800 (SKK490 t=9 105N)	5 m	JP-NPH φ1000-800 (C種 105N)	11m	JP-NPH φ1000-800 (A種 105N)	12m	14	F.T.Pile構法	標準タイプ
⊘	P3A	800φ	4,800	28 m	JP-HSC φ800 (SKK490 t=9 105N)	5 m	JP-NPHC φ1000-800 (ⅡA種 105N) (PRC部 5.0m + PHC部 6.0m)	11m	JP-NPH φ1000-800 (A種 105N)	12m	5	F.T.Pile構法	標準タイプ
⊗	P4	700φ	3,400	28 m	JP-HSC φ700 (SKK490 t=9 105N)	5 m	JP-PHC φ700 (C種 105N)	11m	JP-NPH φ800-600-700 (A種 105N)	12m	11	F.T.Pile構法	標準タイプ
											合 計	47	・バイルキャップコンクリートの設計基準値

・継手工法：トリプルプレートジョイント（TPJ）【BCJ評定-FD0183-08】

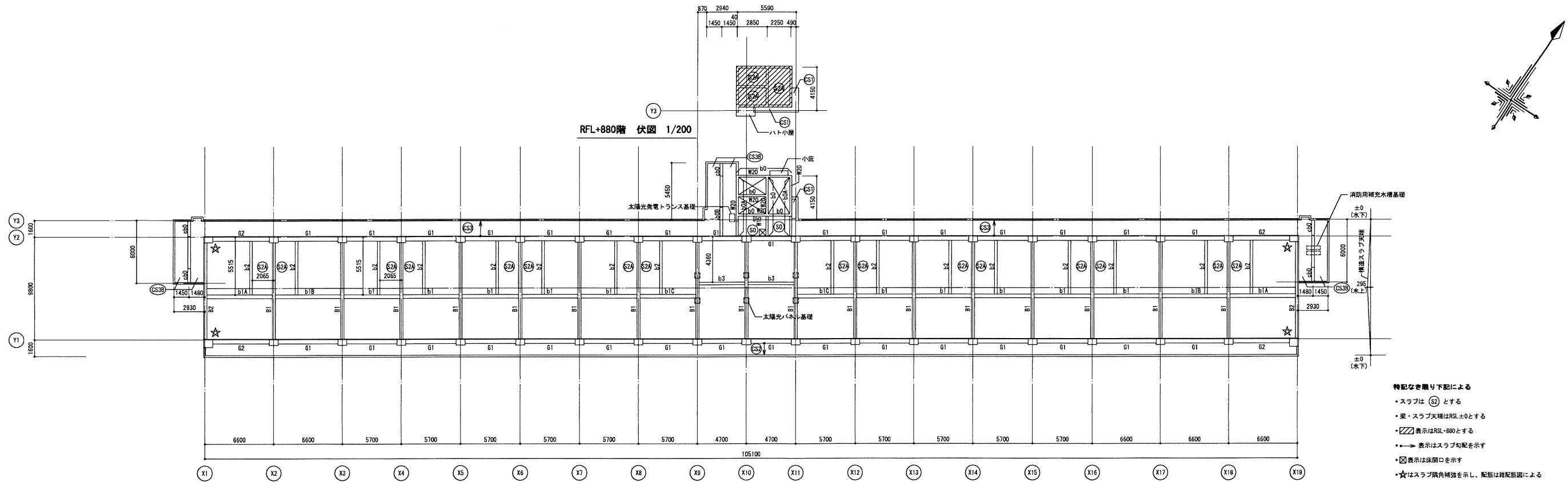
・パイルキャップコンクリートの設計基準強度 $f_{cc}=27\text{N/mm}^2$ とする。

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事			
図面名称	杭伏図・基礎・ピット伏図			
A3縮尺	1/400	A1縮尺	1/200	
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S	11	
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm			

一級建築士（大臣） 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

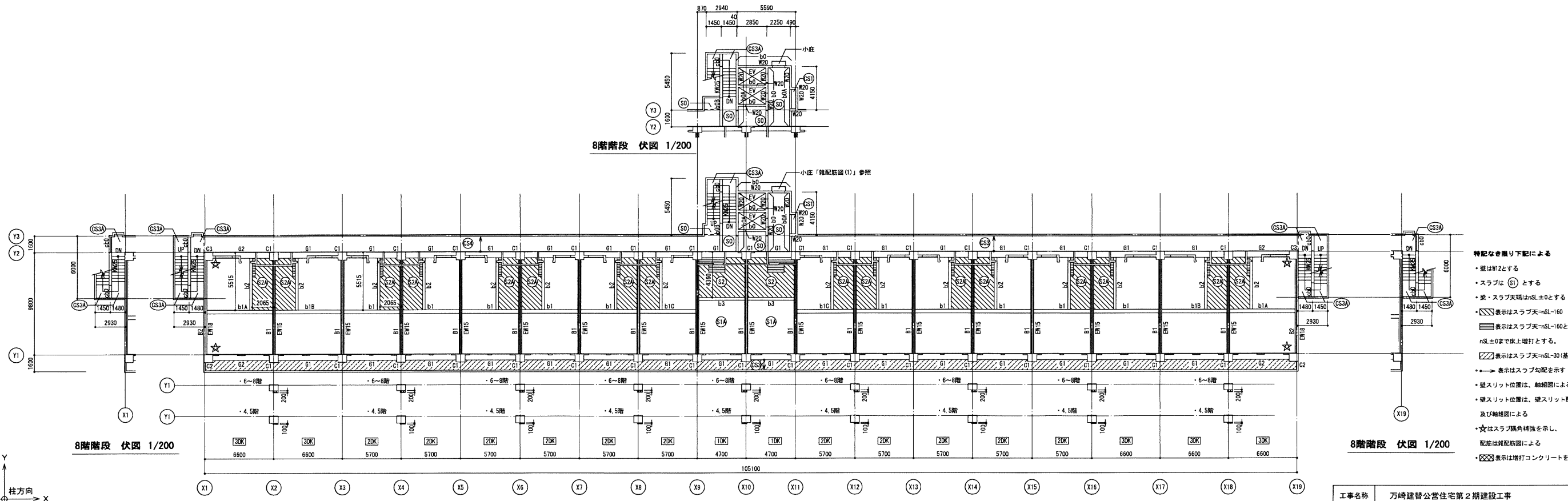


工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	1階伏図・2階伏図		
A3縮尺	1 / 4 0 0	A1縮尺	1 / 2 0 0
堺市 建築都市局 建築部	図面番号		S / 1 2
原寸法			



- 特記なき限り下記による
- ・スラブは (S2) とする
 - ・梁・スラブ天端はRSL±0とする
 - ・(S2)表示はRSL+880とする
 - ・→表示はスラブ勾配を示す
 - ・☒表示は床開口を示す
 - ・☆はスラブ隅角補強を示し、配筋は補配筋図による

R階 伏図 1/200



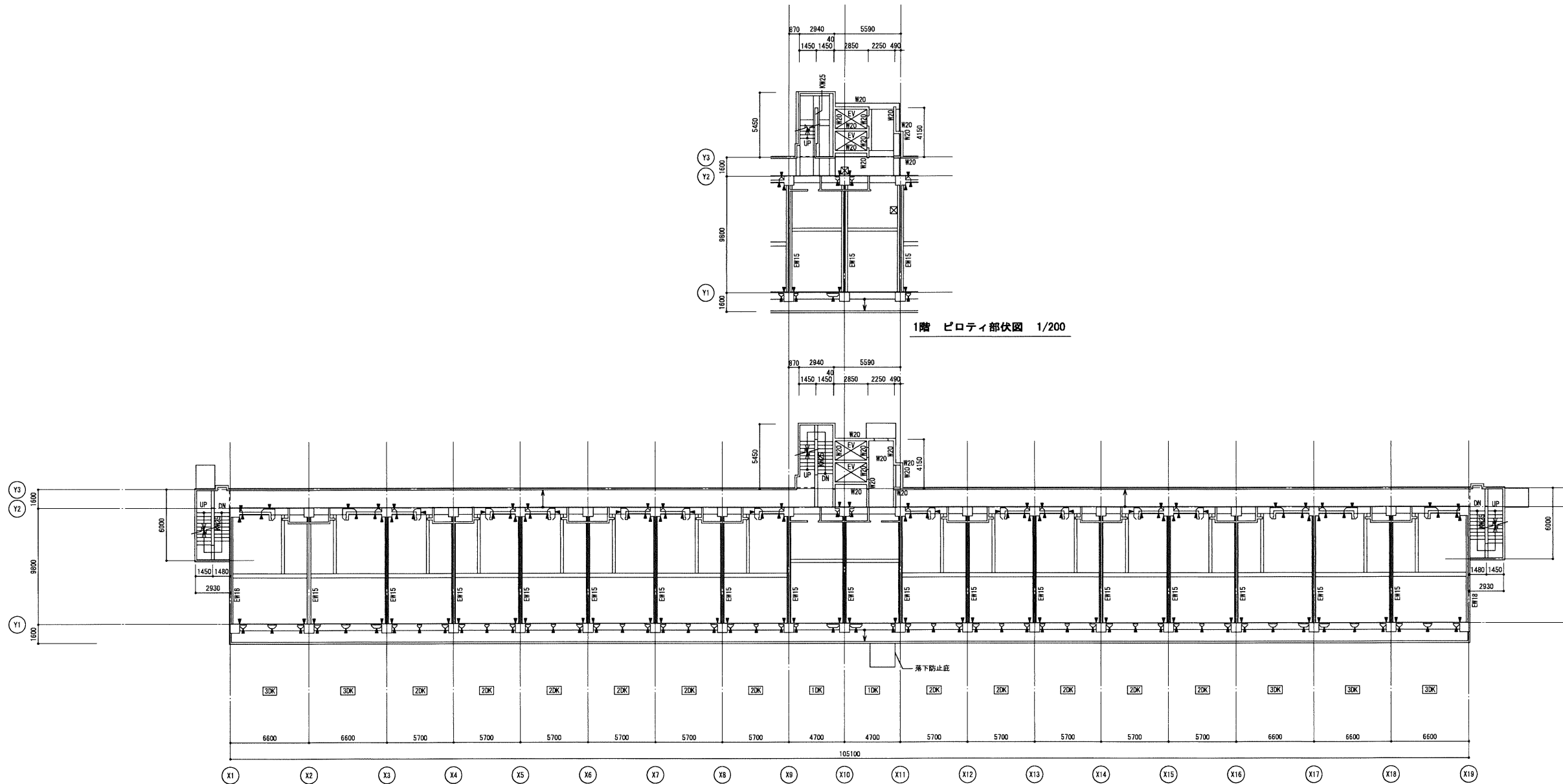
- 特記なき限り下記による
- ・壁はR1とする
 - ・スラブは (S1) とする
 - ・梁・スラブ天端はnSL±0とする
 - ・(S1)表示はスラブ天-nSL-160とし、nSL±0まで床上増打とする。
 - ・(S1)表示はスラブ天-nSL-30(基礎)とする。
 - ・→表示はスラブ勾配を示す
 - ・壁スリット位置は、軸組図による
 - ・壁スリット位置は、壁スリット配置図及び軸組図による
 - ・☆はスラブ隅角補強を示し、配筋は補配筋図による
 - ・☒表示は増打コンクリートを示す。

8階階段 伏図 1/200

3～8階 伏図 1/200



工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	3～8階伏図・R階伏図		
A3縮尺	1／400	A1縮尺	1／200
堺市 建築都市局 建築部	図面番号		S／13
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		



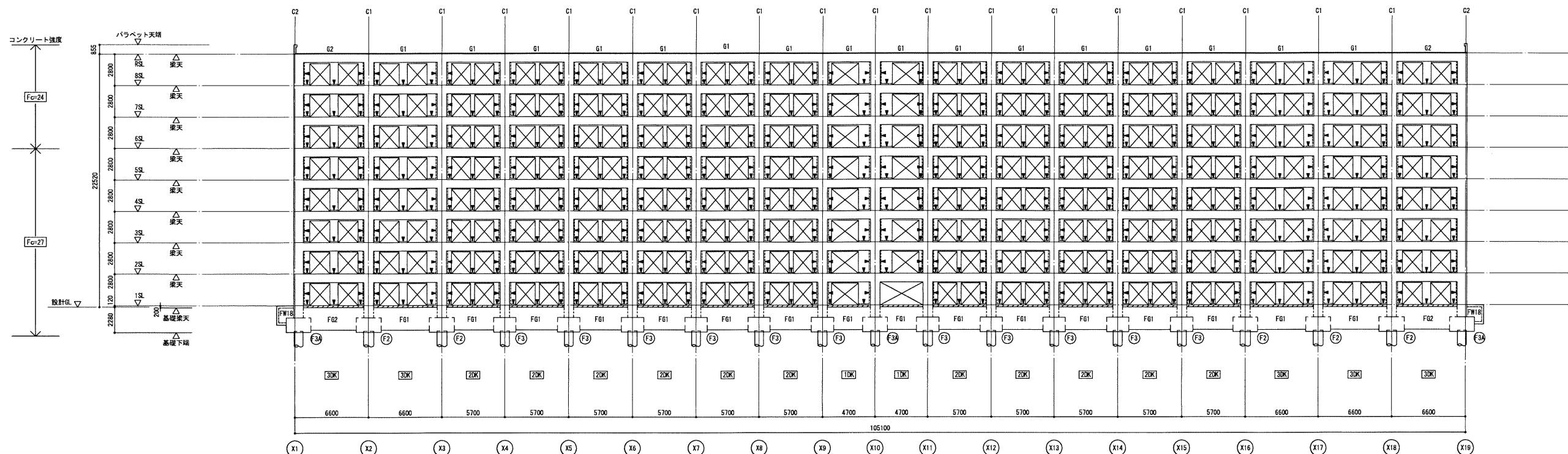
壁スリット配置図 1/200

特記なき限り下記による。

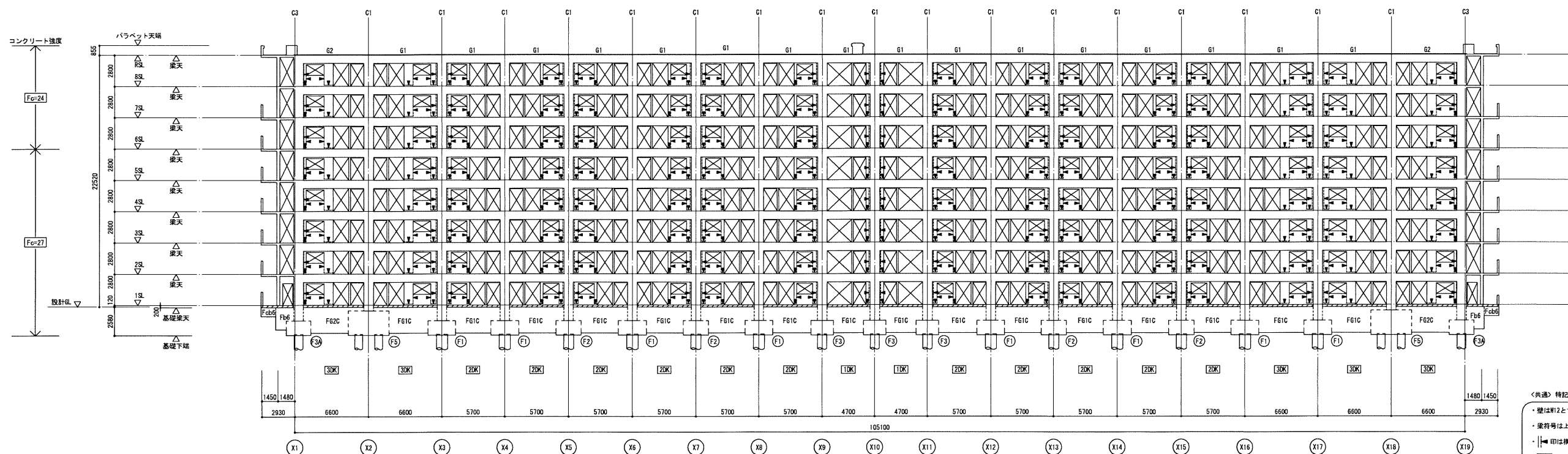
- 壁はW12とする
- ▼印は構造鉛直スリット(完全スリット)を示す。
- ▲印は構造水平スリット(完全スリット)を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	壁スリット配置図		
A3縮尺	1／400	A1縮尺	1／200
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S／14	
原寸法			

一級建築士(大匠) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠



(Y1) 通 軸組図 1/200

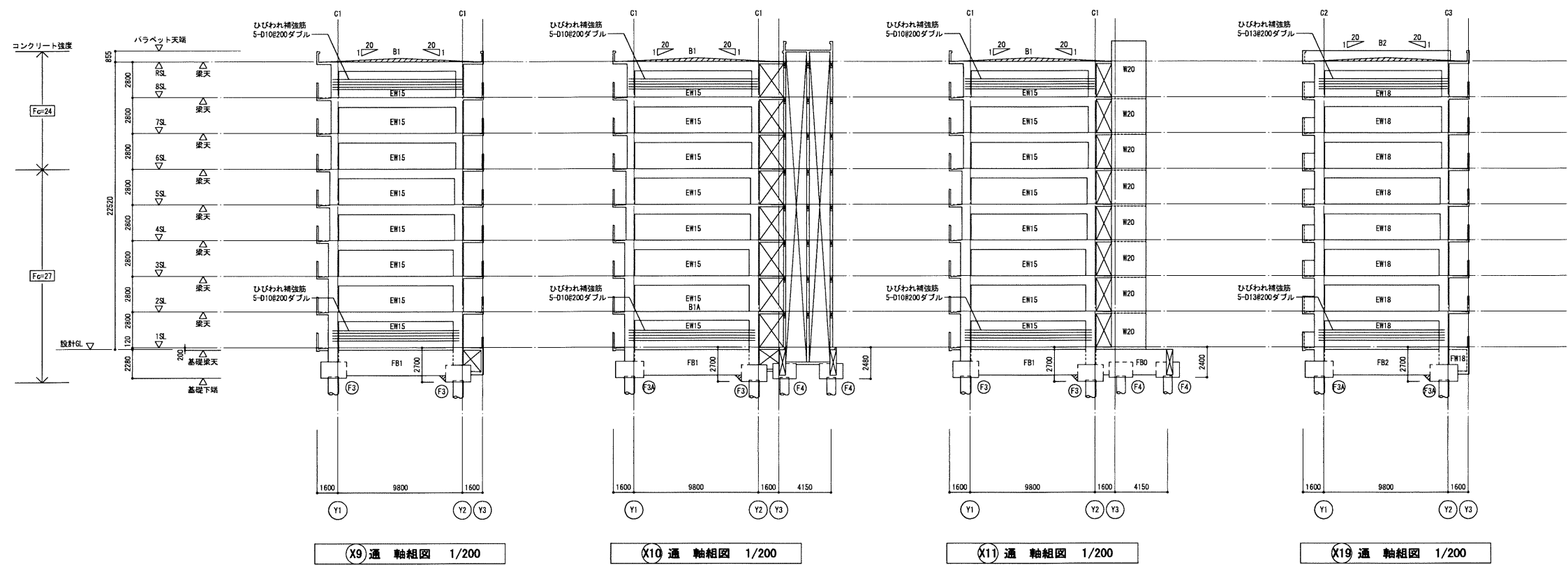
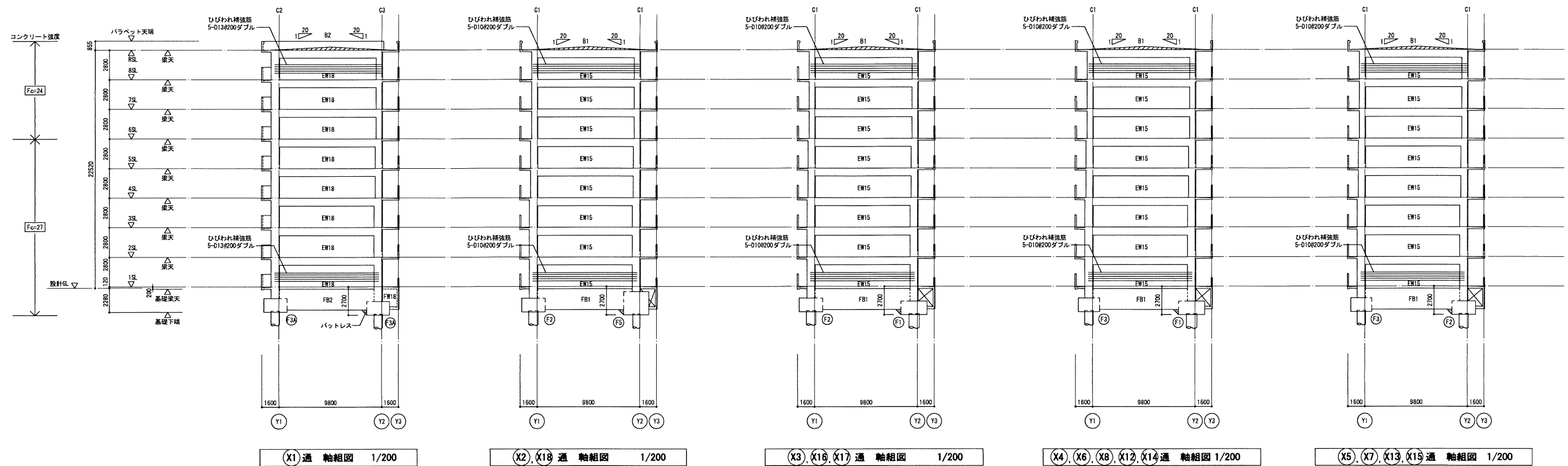


(Y2) 通 軸組図 1/200

＜共通＞ 特記なきは下記による。
・壁はW2とする。
・梁符号は上階に倣う。
・印は構造スリット(完全スリット)を示す。
・ZZ表示は増打を示す

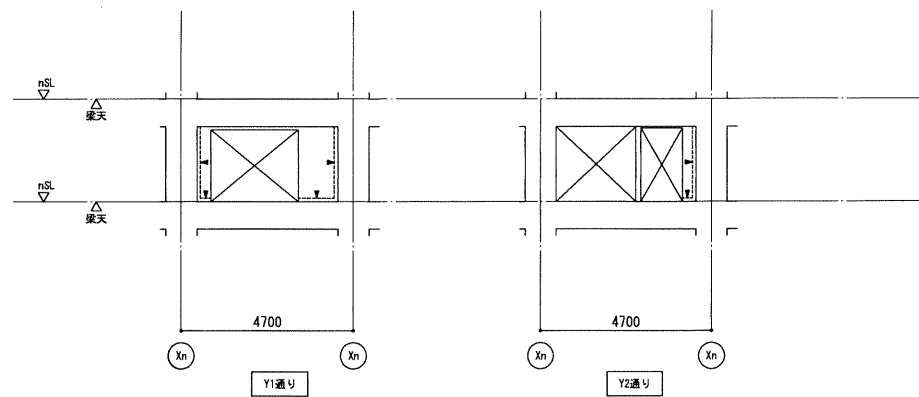
工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	軸組図 (1)		
A3縮尺	1 / 4 0 0	A1縮尺	1 / 2 0 0
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / 1 5	
原寸法	02,0005,00010,00015,00020,000mm		

一級建築士 (大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

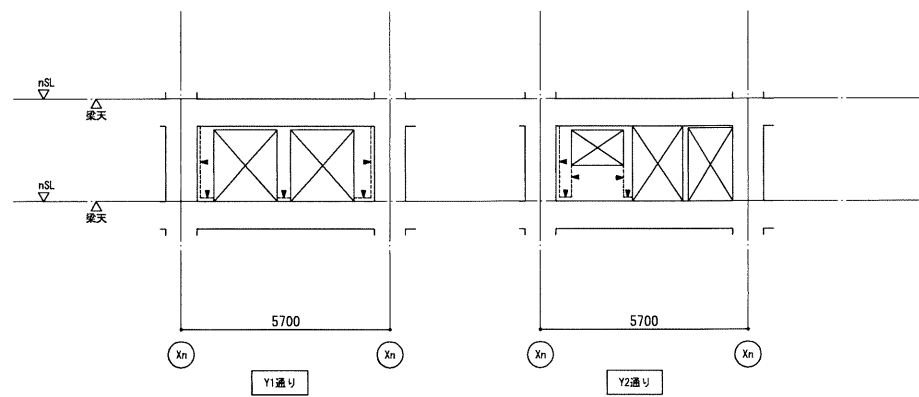


・共通 特記なきは下記による。
 ・東符号は上層に依る。
 ・印は構造スリット(完全スリット)を示す。
 ・表示は増打を示す。
 ・ひびわれ補強筋は柱に2定着とし、壁内法高さの中央付近に配する。

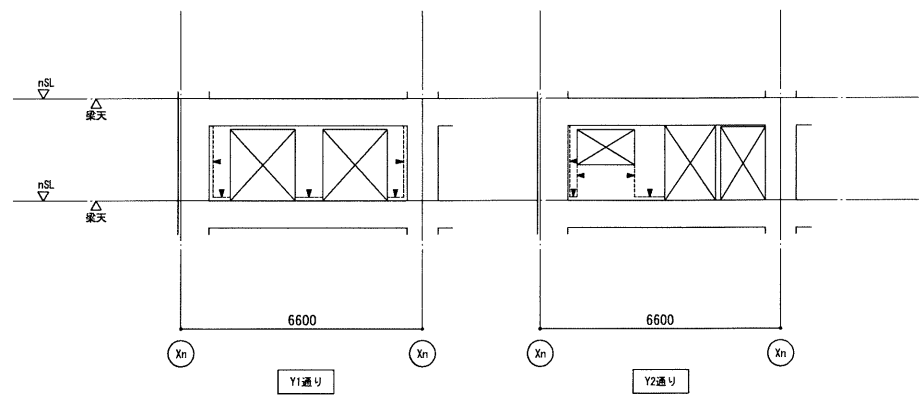
工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	軸組図 (2)		
A3縮尺	1 / 400	A1縮尺	1 / 200
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / 16	
原寸法			



1DK拡大図 1/1/100



2DK拡大図 1/1/100



3DK拡大図 1/1/100

＜共通＞ 特記なきは下記による。
・印は構造スリット(完全スリット)を示す。

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	部屋タイプ別拡大図		
A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100
堺市 建築都市局 建築部	図面番号		S／17
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		

基礎リスト

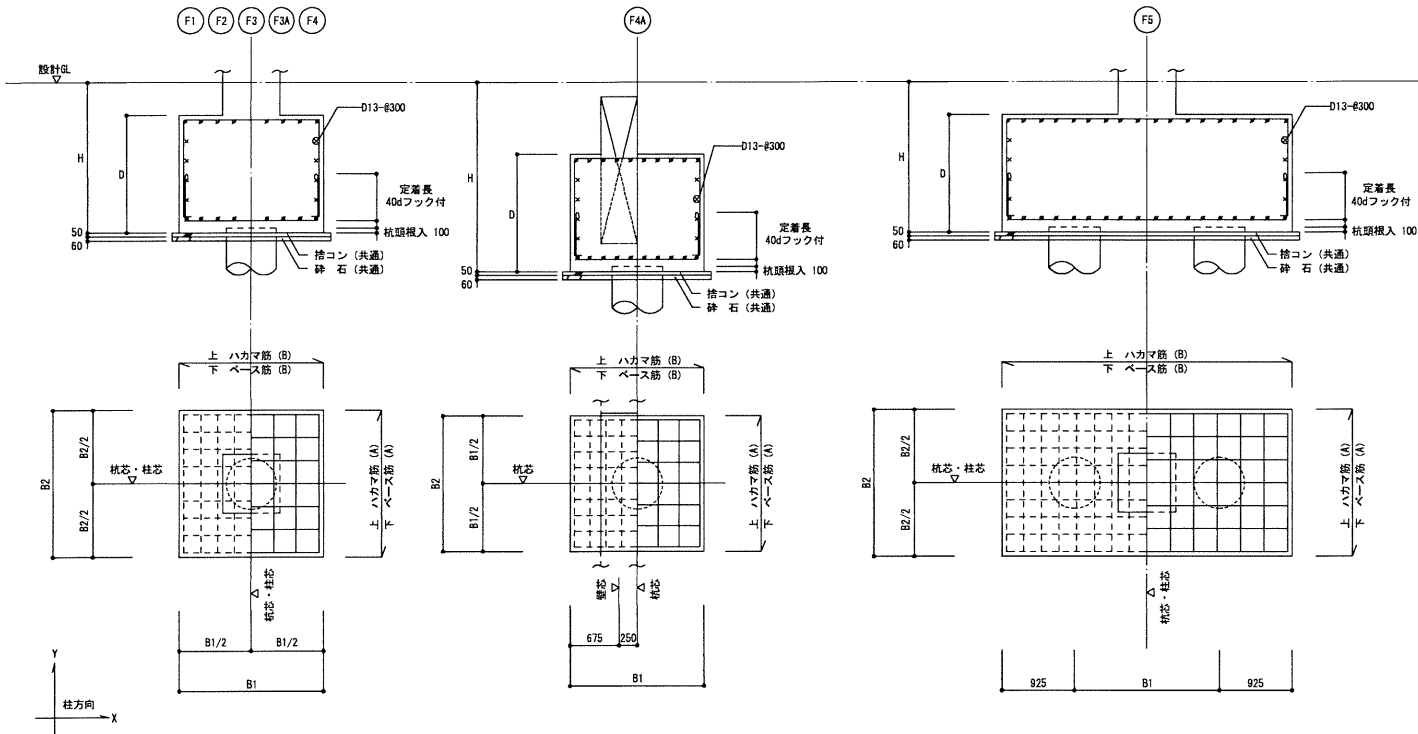
1/50

特記なき限り下記による

・H寸法は、基礎伏図および軸組図参照

・鉄筋強度は、D16以下 SD295とする

・杭天端とベース筋のあきは70mm確保のこと



基礎符号	杭符号	形状			配筋			
		B1	B2	D	ベース筋 (A)	ベース筋 (B)	ハカマ筋 (A)	ハカマ筋 (B)
F1	P1	2,500	2,500	1,300	13-D16	13-D16	D13-#300	D13-#300
F2	P2	2,250	2,250	1,300	12-D16	12-D16	全上	全上
F3	P3	2,000	2,000	1,300	10-D16	10-D16	全上	全上
F3A	P3A	2,200	2,200	1,300	11-D16	11-D16	全上	全上
F4	P4	1,850	1,850	1,200	10-D16	10-D16	全上	全上
F4A	P4	1,850	1,850	1,600	10-D16	10-D16	全上	全上
F5	P4	1,800	2,400	2,200	16-D19	19-D16	全上	全上

特記なき限り下記による

・鉄筋 D16以下 SD295
D19~D25 SD345

基礎梁リスト

1/50

符号	F60	F60A	F61	F61C	F62	F62C		F60, F6b0	F60A	F61	F62	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	
断面												
B x D	500x2,000	500x1,700	600x2,000	600x2,300	600x2,000	600x2,300		500x2,000	400x1,700	500x2,000	500x2,000	
上端筋	7-D29	7-D29	7-D29	7-D29	11-D29	11-D29		7-D29	5-D25	7-D29	6-D29	
下端筋	7-D29	7-D29	7-D29	7-D29	10-D29	10-D29		7-D29	5-D25	6-D29	6-D29	
スラッパ	□-D13-#150	□-D13-#150	□-D13-#150	□-D13-#150	□-D13-#150	□-D13-#150		□-D13-#150	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#200	

基礎小梁リスト

1/50

符号	Fb1, Fb1		Fb2, Fb2	Fb3, Fb3	Fb4	Fb5, Fb5	Fb6	Fb6	Fb7	
位置	先端・Y2側端部	中央部・連梁端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
断面										
B x D	500x2000	500x2000	350x800	500x2000	500x2000	500x2000	500x800	350x800		
上端筋	4-D25	8-D25	6-D25	3-D22	6-D25	6-D25	4-D25	3-D22		
下端筋	4-D25	8-D25	6-D25	3-D22	6-D25	6-D25	4-D25	3-D22		
スラッパ	□-D13-#200	□-D13-#150	□-D10-#200	□-D13-#150	□-D13-#200	□-D13-#150	□-D13-#200	□-D10-#200		

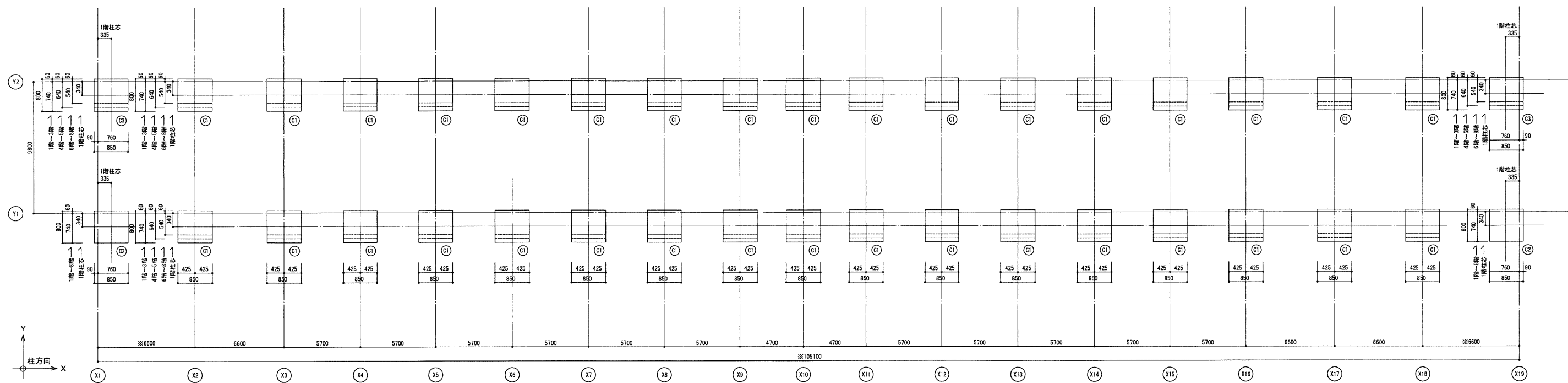
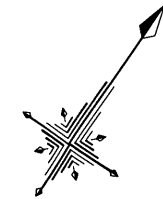
特記なき限り下記による

・鉄筋 D16以下 SD295
D19~D25 SD345
・腹筋 2-D13とし、図示の根数とする
・スラッパは在来形状とする
・巾止め筋は D10-#1,000とする

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	基礎・基礎梁・基礎小梁リスト		
A3縮尺	1/100	A1縮尺	1/50
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S / 18	

原寸法 0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm

一級建築士(大匠) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠



柱芯線図 1/50, 1/150

特記なき限り下記による
・柱：1～8階とする
・※寸法はノンスケールとする

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	柱芯線図		
A3縮尺	1／100, 300	A1縮尺	1／50, 150
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S／19	
原寸法			

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

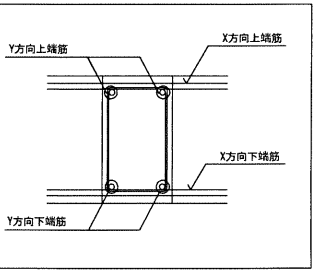
柱リスト 1/50

柱方向 Y ↑ X →	C1	C2	C3	
8階				
B×D	850x600	850x800	850x600	
主筋	12-D25	12-D25	12-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
7階				
B×D	850x600	850x800	850x600	
主筋	12-D25	12-D25	12-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
6階				
B×D	850x700	850x800	850x600	
主筋	14-D25	14-D25	14-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
5階				
B×D	850x700	850x800	850x700	
主筋	14-D25	14-D25	14-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
4階				
B×D	850x700	850x800	850x700	
主筋	14-D25	14-D25	14-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
3階				
B×D	850x800	850x800	850x800	
主筋	16-D25	16-D25	16-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
2階				
B×D	850x800	850x800	850x800	
主筋	16-D25	16-D25	16-D25	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	
1階				
B×D	850x800	850x800	850x800	
主筋	16-D29	16-D29	16-D29	
フープ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D13 #100	

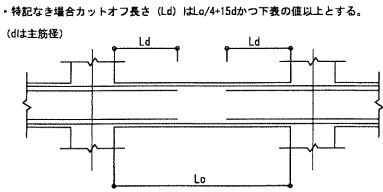
大梁リスト 1/50

符 号	G1	G2	B1	B1A	B2	
位 置	端部	中央部	端部	中央部	全断面	全断面
R階						
B×D	450x750	450x750	300x750		300x750	
上端筋	4-D25	4-D25	4-D25		3-D22	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25		3-D22	
スターラップ	□-D13 #200	□-D13 #200	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10	
8階						
B×D	450x750	450x750	300x750		300x750	
上端筋	5-D25	4-D25	5-D25		3-D22	
下端筋	4-D25	4-D25	4-D25		3-D22	
スターラップ	□-D13 #150	□-D13 #150	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
7階						
B×D	500x750	500x750	300x750		300x750	
上端筋	7-D25	5-D25	7-D25		3-D22	
下端筋	6-D25	5-D25	6-D25		3-D22	
スターラップ	□-D13 #150	□-D13 #150	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
6階						
B×D	500x750	500x750	300x750		300x750	
上端筋	8-D25	5-D25	8-D25		3-D22	
下端筋	7-D25	5-D25	7-D25		3-D22	
スターラップ	□-D13 #100	□-D13 #100	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
5階						
B×D	600x750	600x750	300x750		300x750	
上端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
下端筋	6-D29	5-D29	6-D29		3-D22	
スターラップ	□-S13 #100	□-S13 #100	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
4階						
B×D	600x750	600x750	300x750		300x750	
上端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
下端筋	6-D29	5-D29	6-D29		3-D22	
スターラップ	□-S13 #100	□-S13 #100	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
3階						
B×D	600x750	600x750	300x750		300x750	
上端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
下端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
スターラップ	□-S13 #100	□-S13 #100	□-D10 #200		□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10		2-D10	
2階						
B×D	600x750	600x750	300x750	300x700	300x750	
上端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
下端筋	7-D29	5-D29	7-D29		3-D22	
スターラップ	□-S13 #100	□-S13 #100	□-D10 #200	□-D10 #200	□-D10 #200	
腹筋	2-D10 (※)	2-D10 (※)	2-D10	2-D10	2-D10	

大梁主筋関係図



大梁カットオフ筋定着長



＜ カットオフ長さ (Ld) ＞

階数	符号	G1	G2
R	—	—	—
8	1600	—	—
7	1600	—	—
6	1600	—	—
5	1850	1850	—
4	1850	1850	—
3	1850	1850	—
2	1850	1850	—

＜共通＞特記なき限り下記による

鉄筋
D16以下 SD295
D19～D25 SD345
D29 SD390
S13 KSS785 (同等品)

＜柱リスト＞

・H00Pは外周を接続H00Pとし、
中子は135° フック形状H00Pも可とする。
・ハネルゾーンH00Pは下階と同径、同材質、
□形φ100、135° フック形状とする。

＜大梁リスト＞

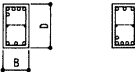
・※2～8階 Y2通り
G1、G2梁の腹筋はD10をD13とし柱にL2定着とする。

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	柱・大梁リスト		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S／20
原寸法			

小梁リスト

1/50

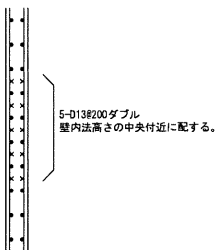
※印付鉄筋は取付く部材にL2定着とする。

符 号	b1		b1A			b1B			b1C			b2		b3
位 置	端部	中央部	(X1)(X19)側端部	中央部	(X2)(X19)側端部	(X2)(X19)側端部	中央部	(X3)(X17)側端部	(X8)(X12)側端部	中央部	(X9)(X11)側端部	端部	中央部	全断面
断 面														
B x D	350x600		350x600			350x600			350x600			250x600		250x600
上端筋	5-D22	3-D22	3-D22	3-D22	6-D22	6-D22	3-D22	5-D22	5-D22	3-D22	3-D22	2-D19	2-D19	2-D22
下端筋	3-D22	5-D22	3-D22	5-D22	4-D22	4-D22	5-D22	3-D22	3-D22	5-D22	3-D22	2-D19	4-D19	2-D22
スターラップ	□-D10 #150		□-D10 #150			□-D10 #150			□-D10 #150			□-D10 #200		□-D10 #200

符 号	b0	b0A	b0B		cb0		
位 置	全断面	全断面	全断面		元端	先端	
断 面							
B x D	200x500	200x500	250x500		250x500～450		
上端筋	2-D19	※3-D19	※3-D19		4-D19	4-D19	
下端筋	2-D19	※3-D19	※3-D19		2-D19	2-D19	
スターラップ	□-D10 #200	□-D10 #200	□-D10 #200		□-D10 #200		

壁リスト1/50										
付符号の配筋要領は、鉄筋コンクリート壁式構造配筋図に準ずる。										
符 号	W12	W15	W20	EW15		EW18	FW18		W25	
壁 厚	120	150	200	150		180	180		250	
断 面										
鉄筋法	シングル	ダブルテドリ	ダブル	ダブルテドリ		ダブル	ダブル		ダブル	
縦 筋	D10-#200	D10-#200	D10、D13-#200	D10-#200		D10-#200	D10-#200		D13-#150	
横 筋	D10-#200	D10-#200	D10、D13-#200	D10-#200		D10-#200	D10-#200		□-D13-#150	
開 口 補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	4-D13	-		-		-	
	横筋	2-D13	2-D13	4-D13	-		-		-	
	斜筋	2-D13	2-D13	2-D13	-		-		2-D13	
隅端部	2-D13	4-D13	4-D13	-		-	4-D13		4-D19	

耐震壁ひび割れ補強要領図1/30



床版リスト									
符 号	版 厚	位 置	短辺（主筋）方向		長辺（配力筋）方向		備 考		
			端部	中央部	端部	中央部			
S1	180	上端筋	D10、D13-#200	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10-#200		D10-#200				
S1A	180	上端筋	D10、D13-#150	同 左	D10、D13-#200	同 左			
		下端筋	D10-#150		D10-#200				
S2	150	上端筋	D10、D13-#150	同 左	D10、D13-#200	同 左	屋根、1階廊下		
		下端筋	D10-#150		D10-#200				
S2A	150	上端筋	D10、D13-#200	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10-#200		D10-#200				
S3	200	上端筋	D13-#150	同 左	D13-#200	同 左			
		下端筋	D10、D13-#150		D10、D13-#200				
S0	150～180	上端筋	D13-#150	同 左	D13-#150	同 左			
		下端筋	D13-#150		D13-#150				
CS1	150	上端筋	D10、D13-#200	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10-#200		D10-#200				
CS1A	170	上端筋	D10、D13-#200	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10-#200		D10-#200				
CS1B	180	上端筋	D10、D13-#200	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10-#200		D10-#200				
CS2	180～210	上端筋	D10、D13-#150	同 左	D10-#200	同 左	屋根（バルコニー側）		
		下端筋	D10-#150		D10-#200				
CS3	180～210	上端筋	D13-#150	同 左	D10-#200	同 左	屋根（廊下側）、廊下、バルコニー		
		下端筋	D10、D13-#150		D10-#200				
CS3A	150	上端筋	D13-#150	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10、D13-#150		D10-#200				
CS3B	150～210	上端筋	D13-#150	同 左	D10-#200	同 左			
		下端筋	D10、D13-#150		D10-#200				
CS4	180～210	上端筋	D13-#100	同 左	D10-#200	同 左	1階廊下		
		下端筋	D13-#200		D10-#200				
FS1	200	上端筋	D13-#200	同 左	D10-#200	同 左	EVビット		
		下端筋	D13-#200		D10-#200				
FS2	200	上端筋	D13-#200	同 左	D13-#200	同 左			
		下端筋	D13-#200		D13-#200				
FCS1	210	上端筋	D13-#100	同 左	D10-#200	同 左	ビット（廊下側）		
		下端筋	D13-#100		D10-#200				

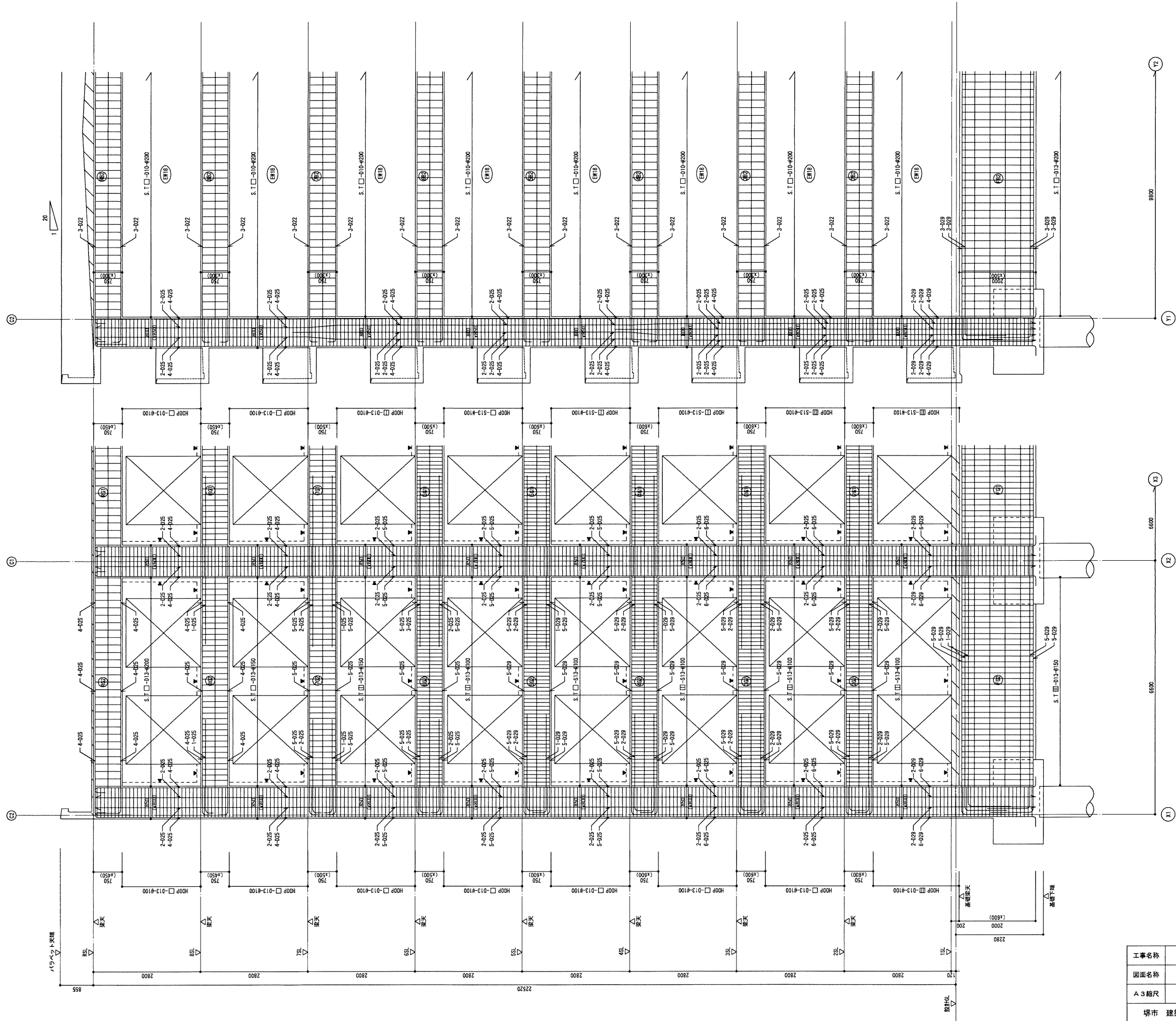
＜共通＞特記なき限り下記による

鉄筋
D16以下 SD295
D19～D25 SD345

＜小梁リスト＞
・縦筋 2-D10とし、図示の段数とする

＜壁リスト＞
・巾止め筋はD10-#1,000とする

工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	小梁・床版・壁リスト		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S／21	
原寸法			

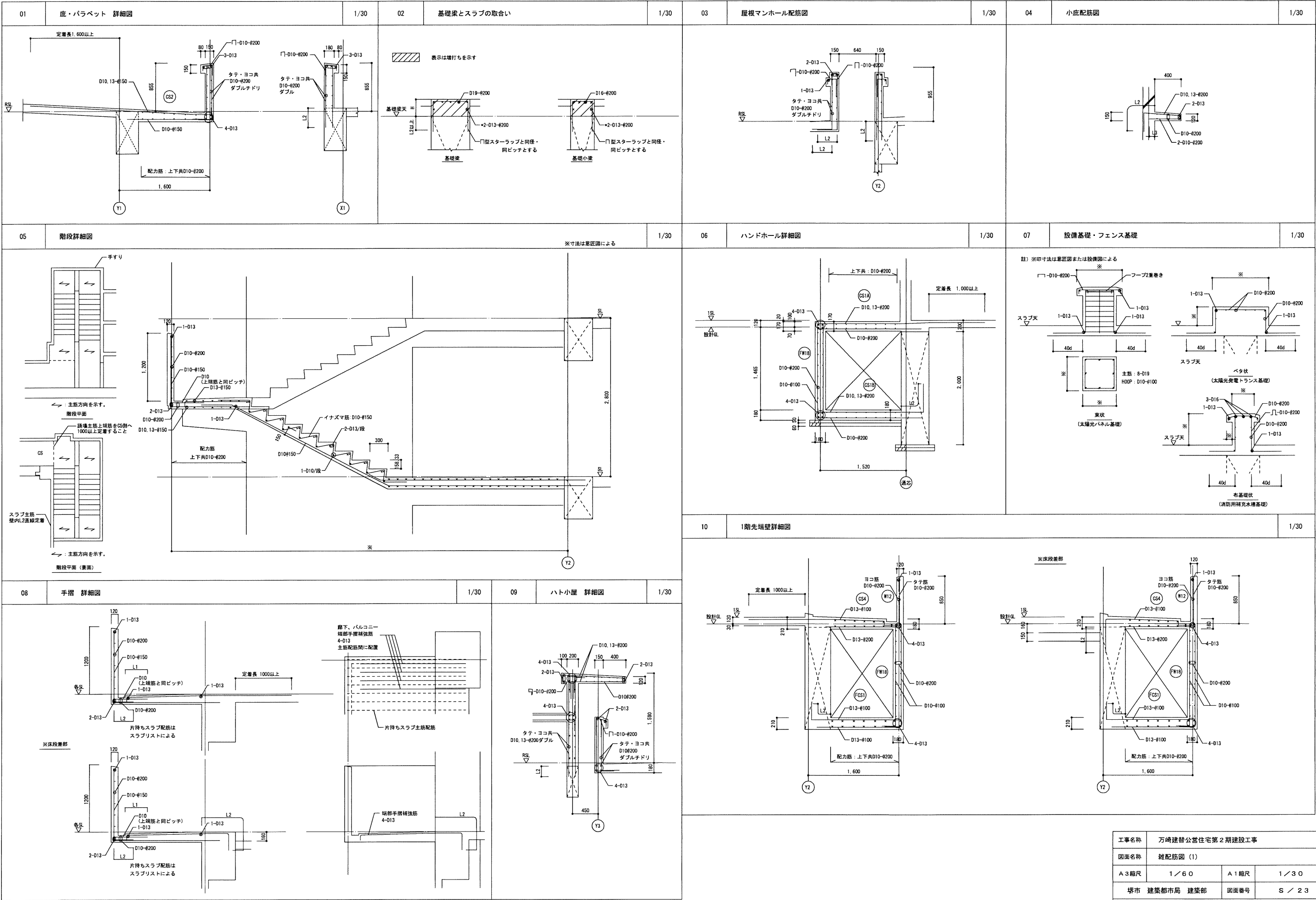


工事名称		万崎建替公営住宅第2期建設工事	
図面名称		梁筋配筋詳細図	
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市 建築都市局 建築部		図面番号	S／22
原寸法	0 2,000 5,000 10,000 15,000 20,000mm		

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

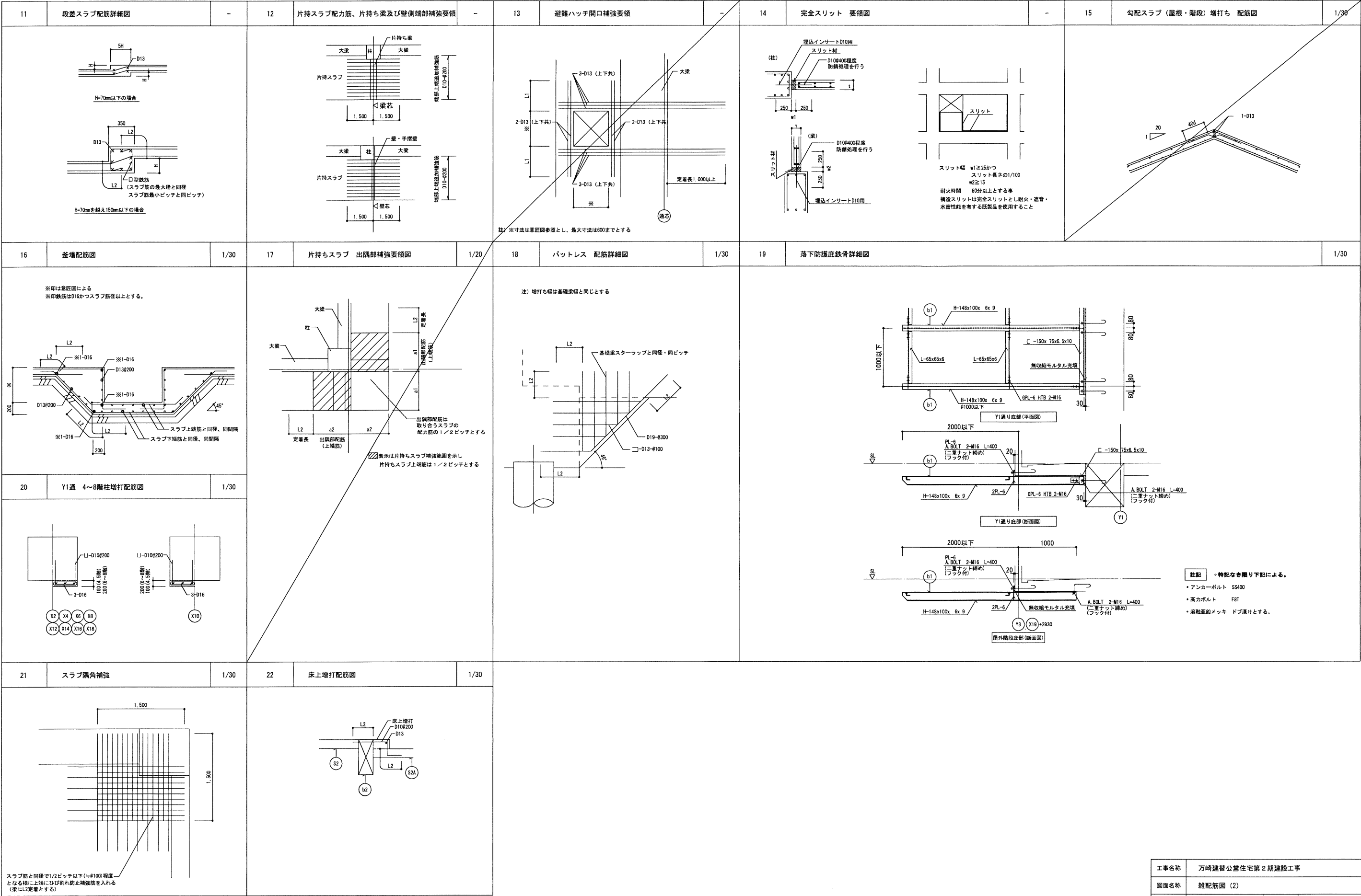
註記

- 特記なき限り下配による。
- 筋は特記とする。
- 鉄筋は、2-025とし、図示の役数とする。
(但し、基礎梁は、2-025とし、図示の役数とする)
- ハナルゾーンは下側と側面、同材質とし、口部100、135° フック形状とする。
- 基礎梁ハナルゾーンは側面と同様、同材質とし、口部100とする。



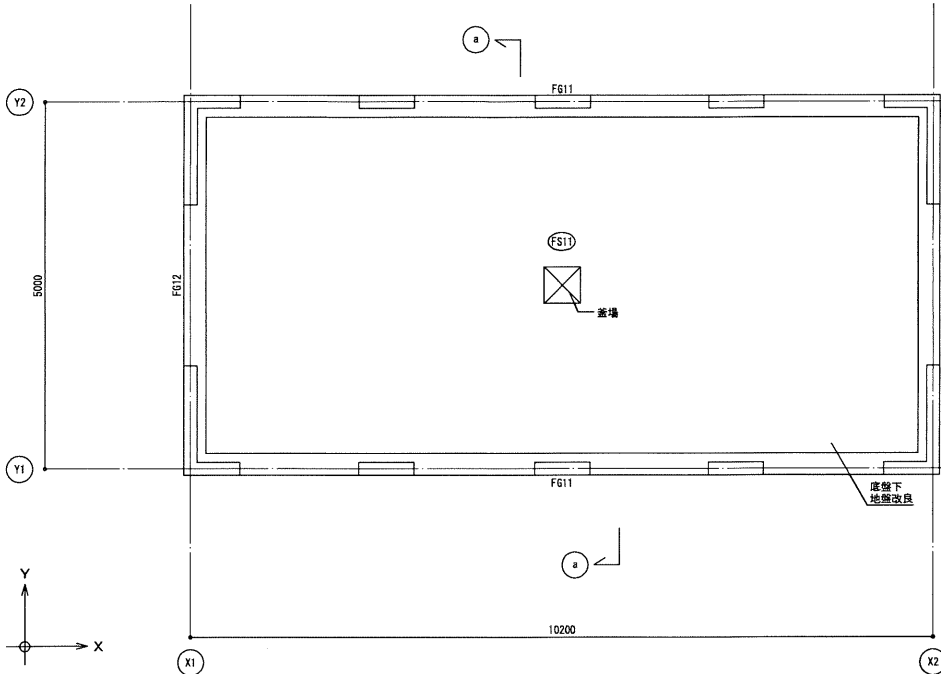
工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	雑配筋図 (1)		
A3縮尺	1／60	A1縮尺	1／30
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S／23
原寸法			

一級建築士(大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠



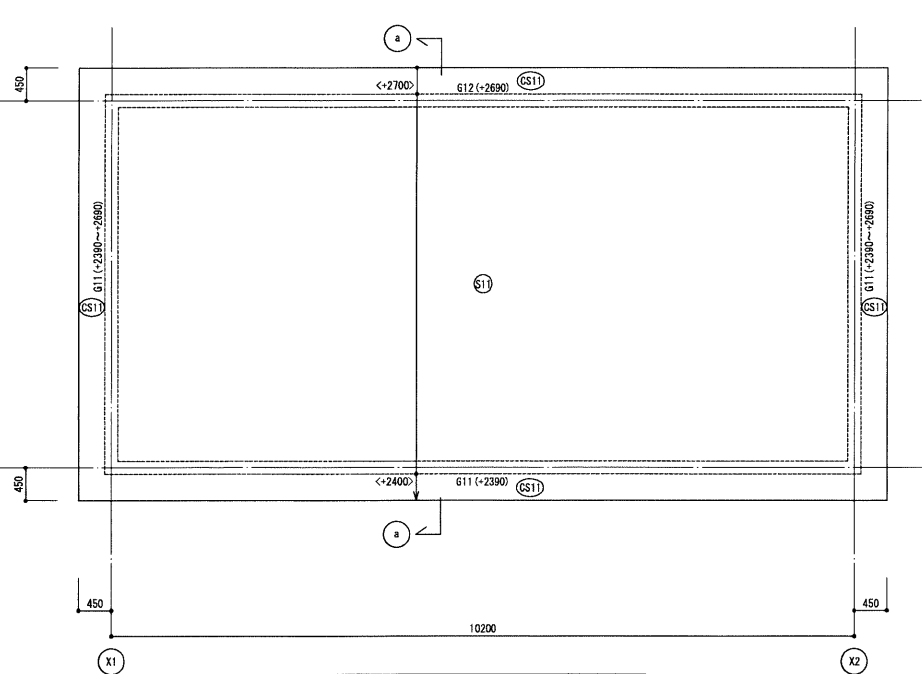
工事名称	万崎建替公営住宅第 2 期建設工事		
図面名称	雑配筋図 (2)		
A 3 縮尺	1 / 6 0	A 1 縮尺	1 / 3 0
堺市	建築都市局	建築部	図面番号
			S / 2 4
原寸法			

一級建築士（大匠） 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

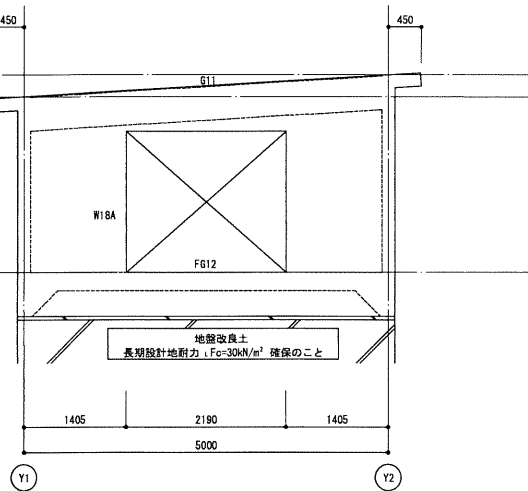
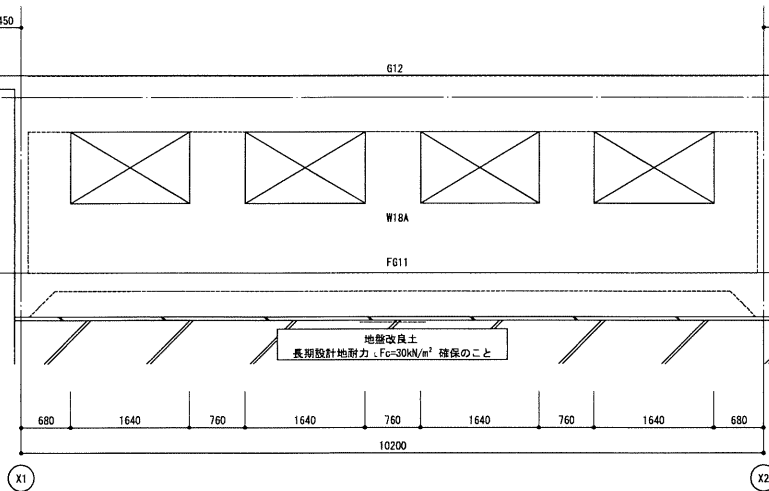
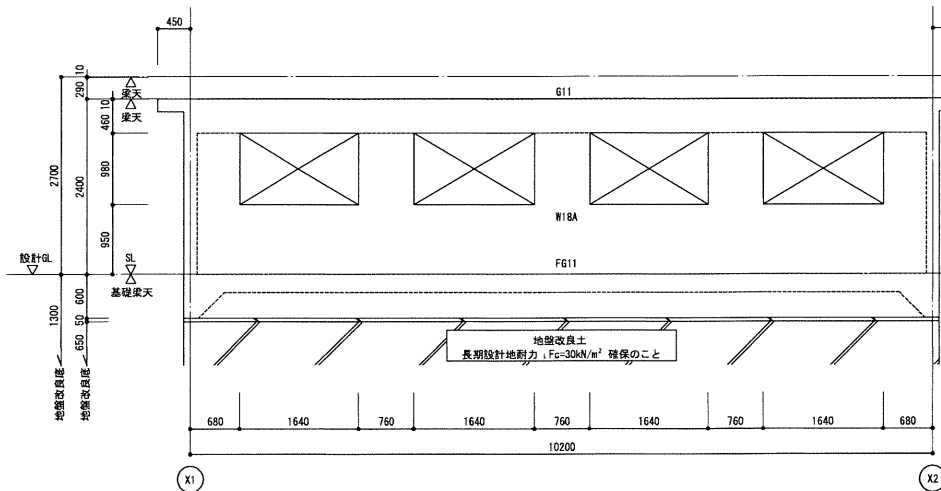


- 共通事項
- ・使用材料
コンクリート： $F_c=21\text{N/mm}^2$ 鉄筋：SD295 (D16以下)
 - ・地耐力： $L_f=30\text{kN/m}^2$ (長期)
 - ・基礎下はラップコンクリート (F_c18) または地盤改良
(セメント固化材 60kg/m^3) とし、改良底は設計底-1300とする。

- 註記
- ・特記なき限り下配による。
 - ・設計底=1SL±0
 - ・スラブ天端・梁天端は1SL±0とする
 - ・壁はW18Aとする。



- 註記
- ・特記なき限り下配による。
 - ・スラブ天端は屋根勾配による。
 - ・ () 内数値は1SLからの梁天端を示す。
 - ・ $\rightarrow$ 印は屋根勾配を示し、 $<$ 内数値は1SLからのスラブ天端レベルを示す。



工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	【ごみ置場】構造図 (1)		
A3縮尺	1／100	A1縮尺	1／50
堺市 建築都市局 建築部	図面番号	S／25	
原寸法			

一級建築士 (大臣) 第325496号 木下 誠
構造設計一級建築士交付第 8848号 木下 誠

基礎梁リスト 1/50

符 号	F611	F612	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
B x D	300x600	300x600	
上端筋	3-D16	4-D16	
下端筋	3-D16	4-D16	
スターラップ	□ -D13-#200	□ -D13-#200	
腹筋	2-D10	2-D10	

大梁リスト 1/50

符 号	G11	G12	
位 置	全断面	全断面	
断 面			
B x D	180x460	180x760	
上端筋	2-D13	2-D13	
下端筋	2-D13	2-D13	
スターラップ	□ -D13-#200	□ -D13-#200	
腹筋			

壁リスト 1/50

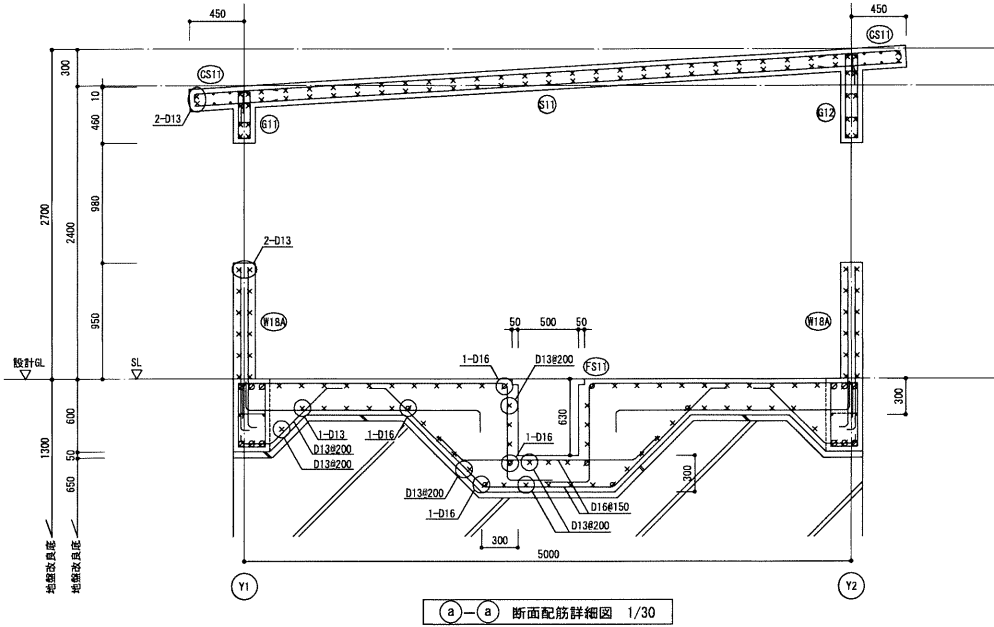
符 号	W18A		
壁 厚	180		
断 面			
鉄筋法	ダブル		
縦 筋	D13-#200		
横 筋	D13-#200		
開 口 補強筋	縦筋	2-D13	
	横筋	2-D13	
	斜筋		

床版リスト

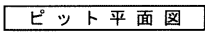
符 号	版 厚	位 置	短辺（主筋）方向		長辺（配力筋）方向		備 考
			端部	中央部	端部	中央部	
S11	180	上端筋	D13-#150	同 左	D13-#200	同 左	
		下端筋	D13-#150		D13-#200		
CS11	180	上端筋	D10, D13-#200	同 左	D10-#200	同 左	
		下端筋	D10-#200		D10-#200		
FS11	300	上端筋	D16-#150	同 左	D13-#200	同 左	
		下端筋	D16-#150		D13-#200		

<リスト共通>特記なき限り下記による

- 大梁リスト
- ・腹筋 縦筋と同径、同ピッチとし、
 - 腹筋用巾止め筋はD10#1000以内とする。
- 床版リスト
- ・スラブ下は捨てコン厚50
- 壁リスト
- ・巾止め筋はD10-#1,000とする。

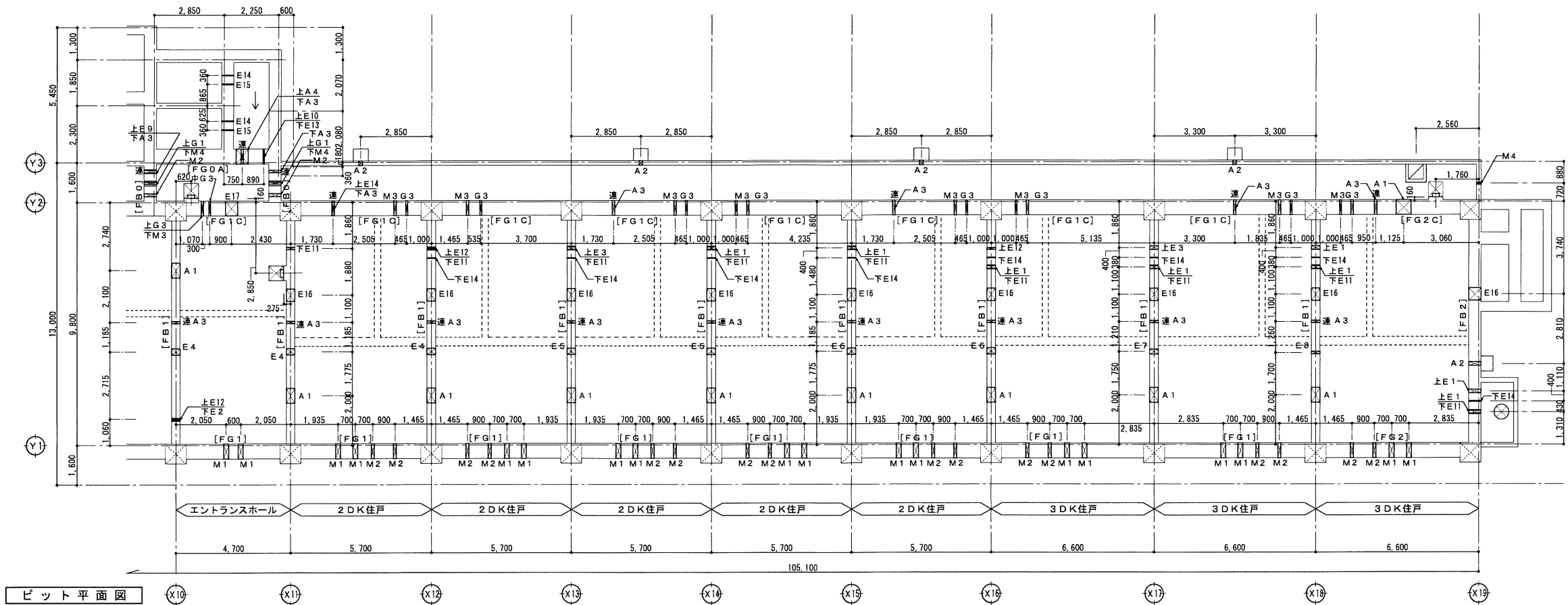


工事名称	万崎建替公営住宅第2期建設工事		
図面名称	【ごみ置場】構造図 (2)		
A3縮尺	1 / 100.60	A1縮尺	1 / 50.30
堺市	建築都市局 建築部	図面番号	S / 26
原寸法			



※ 補強筋の形状・寸法・型タイプ等は、「ダイヤレンNS設計・施工標準仕様書」による。

[illegible]



スリーブ補強リスト

※ 補強筋の形状・寸法・型タイプ等は、「ダイヤレンS設計・施工標準仕様書」による。

■電気設備スリーブ一覧

E1	150×150	設置位置: A-046、047による	幹線・太陽光発電 ／電線管(別途工事)
E2	100×75		
E3	150×75		
E4	250×200		弱電／電線管(別途工事)
E5	250×150		
E6	250×100		
E7	200×50		幹線／電線管(別途工事)
E8	100×50		
E9	150×150		
E10	60×60		弱電／電線管(別途工事)
E11	φ100		
E12	φ75		
E13	60×60		幹線／電線管(別途工事)
E14	φ30		
E15	φ30		
E16	500×125		幹線・弱電・太陽光発電 ／電線管(別途工事)
E17	φ500		

■機械設備スリーブ一覧

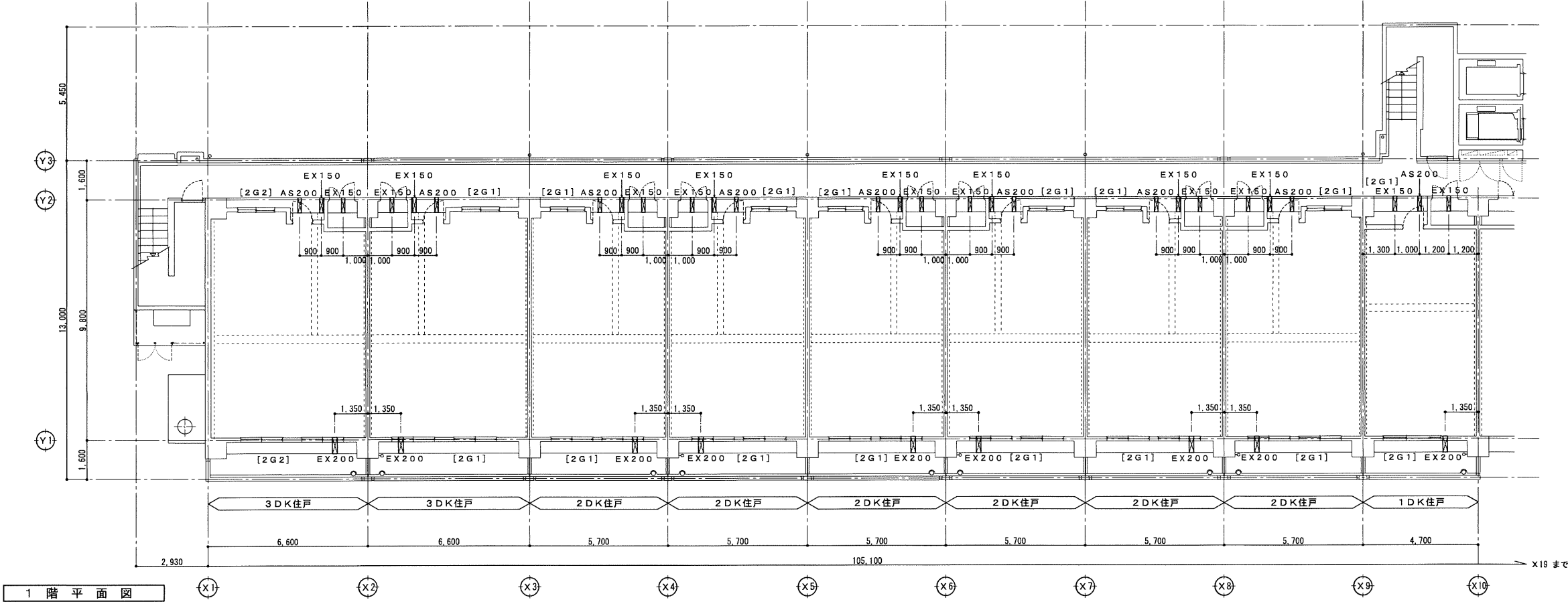
M1	φ200	設置位置: A-046、047による	雑排水管(別途工事)
M2	φ125		
M3	φ100		給水管(別途工事)
M4	φ75		
G1	φ200		ガス管(別途工事)
G2	φ125		
G3	φ75		

開口径	φ100	φ112	φ125	φ168	φ200	φ206	φ212	φ269	φ291	φ320	φ500	φ515	φ600
使用径	φ100	φ100	φ125	φ175	φ200	φ200	φ200	φ250	φ300	φ300	φ500	φ500	φ600
乗符号 孔あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数	組一本数一径 型一R一枚数 箇所数
FG0A												3-2-D13 IV-3R-2 1	
FG1			1-2-D13 I-2R-2 30		1-2-D13 I-2R-2 32								
FG1C	1-2-D13 I-2R-2 16										3-2-D13 IV-3R-2 1		3-2-D13 IV-3R-3 1
FG2			1-4-D13 I-2R-2 4		2-4-D13 I-2R-2 4								
FG2C	1-3-D13 I-2R-2 4												3-3-D13 IV-3R-3 2
FB0			1-3-D13 I-2R-2 2		2-3-D13 I-2R-2 2		2-3-D13 I-2R-2 1						
FB1	1-2-D13 I-2R-2 12	1-3-D13 I-2R-2 2	1-2-D13 I-2R-2 9	2-2-D13 I-2R-2 4		2-2-D13 I-2R-2 2	2-2-D13 I-2R-2 18	2-2-D13 I-2R-2 4	3-2-D13 I-2R-2 4	3-2-D13 I-2R-2 6		3-2-D13 II-2R-2 8	3-2-D13 II-2R-2 17
FB2	1-2-D13 I-2R-2 1		1-2-D13 I-2R-2 1	2-2-D13 I-2R-2 1	2-2-D13 I-2R-2 2		2-2-D13 I-2R-2 18					3-2-D13 II-2R-2 1	
Fb0			1-3-D13 I-2R-2 1		2-3-D13 I-2R-2 1		2-3-D13 I-2R-2 1						

株式会社エスバス建築事務所 一級建築士 第325496号
構造設計一級建築士 第8848号 木下 誠

凡 例		A1 φ600	設置位置: A-046、047による	人通孔		床下点検口 (上部)														工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事		
		A2 φ200	設置位置: A-046、047による	ビット通気孔 (SUS製フード付)		マンホール蓋 (上部)														図面名称	スリーブ図02 (ビット階 (X10~X19))		
		A3 φ100半割	設置位置: A-046、047による	ビット通気管		トラップ: SUS304 φ16 既製品 3段														A3縮尺	1 / 200	A1縮尺	1 / 100
		A4 φ500	設置位置: A-046、047による	人通孔		ビット底に達していない梁を示す。														図面番号	S / 28		
		釜場: W600×D600×H600																		図面番号	S / 28		
		水勾配: 1/100				[FG1]	梁符号を示す													原寸法			

図面番号 S / 28



1 階 平 面 図

スリーブ補強リスト

※ 補強筋の形状・寸法・型タイプ等は、「ダイヤレンS設計・施工標準仕様書」による。

開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔原あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数
2G1	2-3-D13 Ⅲ-2R-2 32	2-3-D13 Ⅴ-2R-2 32
2G2	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4
3G1	2-3-D13 Ⅲ-2R-2 32	2-3-D13 Ⅴ-2R-2 32
3G2	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4

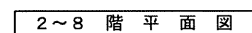
開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔原あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数
4G1	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 32	2-3-D13 Ⅳ-2R-2 32
4G2	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4
5G1	2-2-D13 Ⅳ-2R-2 32	2-2-D13 Ⅴ-2R-2 32
5G2	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-2-D13 Ⅱ-2R-2 4

開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔原あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数
6G1	2-3-D13 Ⅳ-2R-2 32	2-3-D13 Ⅴ-2R-2 32
6G2	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-3-D13 Ⅱ-2R-2 4
7G1	2-3-D13 Ⅳ-2R-2 32	2-3-D13 Ⅳ-2R-2 32
7G2	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2R-2 4

開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔原あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数
8G1	2-2-D13 Ⅱ-2R-2 32	2-2-D13 Ⅲ-2R-2 32
8G2	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 4
RG1	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 32	2-2-D13 Ⅱ-2R-2 32
RG2	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 4	2-2-D13 Ⅰ-2R-2 4

株式会社エスバス建築事務所 一級建築士 第325496号
構造設計一級建築士 第8848号 木下 誠

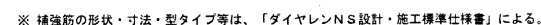
凡 例	E _a 3.0 電線管（火災報知設備）対応スリーブ φ30 設置高さ：SL-410	EX150 排気管（換気設備）対応スリーブ φ150 設置高さ：SL-410																		工事名称	万崎建替公営住宅第二期建設工事			
	E _b 3.0 電線管（共用灯設備）対応スリーブ φ30 設置高さ：SL-410	EX200 排気管（換気設備）対応スリーブ φ200 設置高さ：SL-390																		図面名称	スリーブ図03（1階平面図（X1～X10））			
		AS200 給気管（換気設備）対応スリーブ φ200 設置高さ：SL-410																		A3縮尺	1／200	A1縮尺	1／100	
																				堺市	建築都市局	建築部	図面番号	S／29
	[3G1]	梁符号を示す																		原寸法	0 1,000 2,500 5,000 7,500 10,000mm			



※ 補強筋の形状・寸法・型タイプ等は、「ダイヤレンS設計・施工標準仕様書」による。

開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔磨あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R-R枚数 箇所数	組一本数一径 型-R-R枚数 箇所数
8 G 1	2-2-D 13 Ⅱ-2-R-2 3 2	2-2-D 13 Ⅲ-2-R-2 3 2
8 G 2	2-2-D 13 Ⅰ-2-R-2 4	2-2-D 13 Ⅰ-2-R-2 4
R G 1	2-2-D 13 Ⅰ-2-R-2 3 2	2-2-D 13 Ⅱ-2-R-2 3 2
R G 2	2-2-D 13 Ⅰ-2-R-2 4	2-2-D 13 Ⅰ-2-R-2 4

[illegible]



開口径	φ 150	φ 200	開口径	φ 150	φ 200	開口径	φ 150	φ 200	開口径	φ 150	φ 200
使用径	φ 150	φ 200	使用径	φ 150	φ 200	使用径	φ 150	φ 200	使用径	φ 150	φ 200
梁符号 孔眼あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	梁符号 孔眼あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	梁符号 孔眼あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	梁符号 孔眼あばら筋 ダイヤレンS	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数	組一本数一径 型-R一枚数 箇所数
2 G 1	2-3-D13 Ⅲ-2 R-2 3 2	2-3-D13 Ⅴ-2 R-2 3 2	4 G 1	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 3 2	2-3-D13 Ⅳ-2 R-2 3 2	6 G 1	2-3-D13 Ⅳ-2 R-2 3 2	2-3-D13 Ⅴ-2 R-2 3 2	8 G 1	2-2-D13 Ⅱ-2 R-2 3 2	2-2-D13 Ⅲ-2 R-2 3 2
2 G 2	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	4 G 2	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	6 G 2	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-3-D13 Ⅱ-2 R-2 4	8 G 2	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 4
3 G 1	2-3-D13 Ⅲ-2 R-2 3 2	2-3-D13 Ⅴ-2 R-2 3 2	5 G 1	2-2-D13 Ⅳ-2 R-2 3 2	2-2-D13 Ⅴ-2 R-2 3 2	7 G 1	2-3-D13 Ⅱ-2 R-2 3 2	2-3-D13 Ⅳ-2 R-2 3 2	R G 1	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 3 2	2-2-D13 Ⅱ-2 R-2 3 2
3 G 2	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	5 G 2	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-2-D13 Ⅱ-2 R-2 4	7 G 2	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-3-D13 Ⅰ-2 R-2 4	R G 2	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 4	2-2-D13 Ⅰ-2 R-2 4

[illegible]

梁貫通孔補強材ダイヤレンNS設計・施工標準仕様書

BCJ評定-RC0124-08, BCJ評定-SS0056-01

1. 一般事項

- 本仕様書は、ダイヤレンNSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
- 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・施行令、（一財）日本建築センター及び（一社）日本建築学会の関連する諸指針や諸規程、ダイヤレンNS技術マニュアルによる。

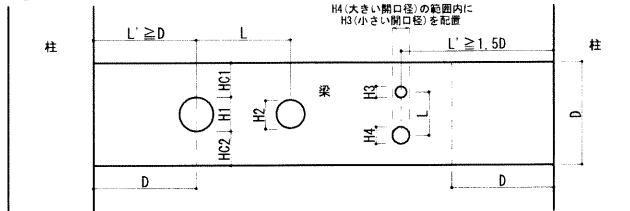
2. 使用材料・貫通孔の適用範囲

(1) 各評定の適用範囲

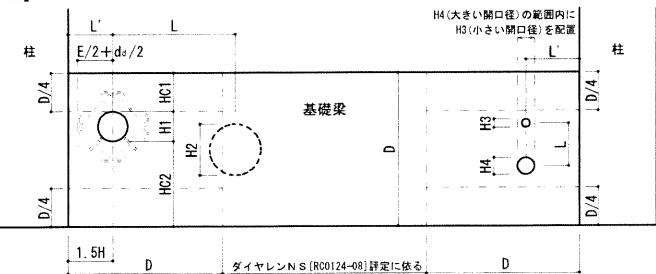
ダイヤレンNS		ダイヤレンNSを用いた基礎梁端部小開口補強
評定番号	[RC0124-08]	[SS0056-01]
対象とする部材	RC造及びSRC造の梁	非降伏のRC造の基礎梁かつ、有効な柱梁接合部に接続する基礎梁※
コンクリート	$F_c=21\text{N/mm}^2 \sim 100\text{N/mm}^2$	$F_c=21\text{N/mm}^2 \sim 45\text{N/mm}^2$
鉄筋	主筋：基準強度295～490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え685N/mm ² 以下の大臣認定品 あばら筋：基準強度295～490N/mm ² のJIS鉄筋、490を超え1275N/mm ² 以下の大臣認定品 ダイヤレンNS：KSS785-K（MSRB-0004）、MK785（MSRB-0067）	
梁せい（D）	—	$D \geq 750\text{mm}$
開口形状	円形または多角形とする（多角形の場合はその外接円を開口とみなす）	
開口径（外径）（H）	$H \leq 750\text{mm}$ かつ $H \leq D/3$	$H < 350\text{mm}$ かつ $H \leq D/5$
上下に複数開口を設ける場合の合計径（ΣH）	$\Sigma H \leq D/3$	$\Sigma H \leq D/3.75$
柱脚から開口中心までの距離（L'）	$L' \geq D$	$L' < D$ かつ $L' \geq 1.5H$ かつ $L' \geq E/2 + d_d/2$
隣接する開口の水平及び鉛直方向中心間距離（L）	隣接する開口径の平均値の3倍以上	
へりあき（HC1, HC2）	HC1, HC2 $\geq (E-H)/2 + d_d/2 + d_w + t_c$	HC1, HC2 $\geq D/4$

E：ダイヤレンNSの寸法
d_d：ダイヤレンNSの鉄筋の呼び径
d_w：あばら筋の呼び径
t_c：コンクリートのかぶり厚さ（40mm以上）

【RC0124-08】



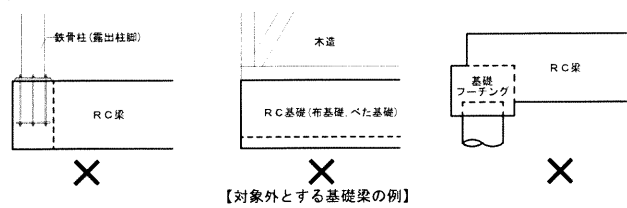
【SS0056-01】



※有効な柱梁接合部に接続する基礎梁とは、梁端部にRC造の柱梁接合部を有する基礎梁をいう。
また、SRC造の場合も、壁柱と基礎梁の接合部を有効な柱梁接合部とみなすことができる。

なお、以下の基礎梁は対象外とする。

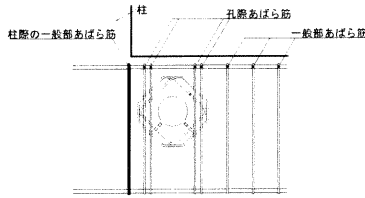
- 鉄骨造及び混構造で鉄骨柱が露出柱脚の場合の基礎梁
- 小規模木造の基礎梁（木造住宅等の布基礎及びべた基礎等）
- 端部にRC造の柱梁接合部が無く、独立基礎又は杭基礎の基礎フーチングのみを有する基礎梁



【対象外とする基礎梁の例】

3. 仕様規定

- ダイヤレンNSの使用枚数は、開口1箇所当たり2枚以上とする。
- 柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも1組の一般部あばら筋（第一あばら筋）を配筋する。[SS0056-01]

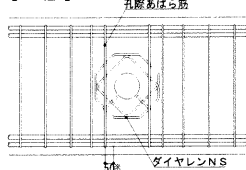


4. 開口部あばら筋の配筋要領

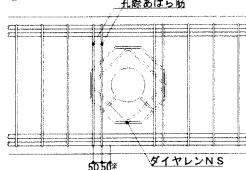
- 開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
- 孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。[SS0056-01]
- 孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

開口部あばら筋の標準組数	
開口径	一般部あばら筋比（ α ）
1%未満	1%以上
$H < 150$	1組
$150 \leq H < 300$	2組
$300 \leq H$	3組

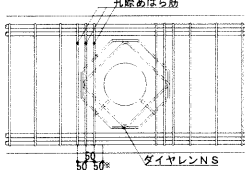
【1組】



【2組】



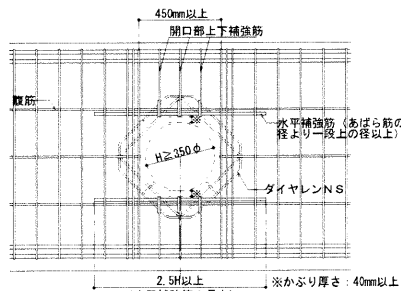
【3組】



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

5. 開口部上下補強要領（350φ以上の場合）

- 開口の左右に配筋する1組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上（開口径で350mm以上）になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
ただし、水平力による応力を負担しない梁（小梁等）の場合は梁せいの1/2は考慮なくともよい。
- 開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。（丸鋼及び引違いは不可）
- 形状にはコ型・U型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側（梁内側）の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d（dは鉄筋の呼び径）以下の場合は、U型またはΠ型の形状で補強を行う。
- 水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし（SD295A程度）、開口径の2.5倍以上の長さとする。



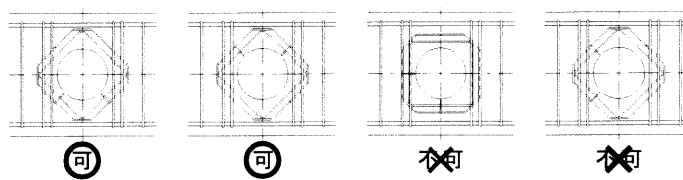
【開口部上下部分の補強要領（U型補強筋で補強する場合の例）】

6. 施工要領例

- 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。
- 補強設計に必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
- 孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。
（束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。）
- ダイヤレンNSを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。
- スリーブをダイヤレンNSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
- 開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7. 施工における注意事項

- ダイヤレンNSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きにるように施工すること。



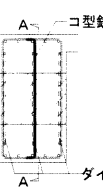
可

可

不可

不可

- 補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンNSが必要になった場合は、右図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンNSを結束して固定する。



8. ダイヤレンNS標準製品寸法表

(特記外単位: mm)												
スリーブ径 (対応径)	型	サイズ	寸 法						形状	重量 (kgf/枚)	Ho	
100 φ (H ≤ 115)	I	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204	
	II	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205	
	III	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206	
	IV	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211	
	V	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227	
125 φ (H ≤ 141)	V-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292	
	I	6	230	140	127	45	325	45	①	0.60	222	
	II	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223	
	III	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227	
	IV	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232	
150 φ (H ≤ 166)	V	16	240	110	183	65	339	50	③	3.57	233	
	V-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299	
	I	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239	
	II	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240	
	III	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245	
175 φ (H ≤ 191)	IV	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246	
	V	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251	
	V-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316	
	I	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257	
	II	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258	
200 φ (H ≤ 216)	III	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263	
	IV	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264	
	V	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269	
	V-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334	
	I	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275	
250 φ (H ≤ 270)	II	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276	
	III	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280	
	IV	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282	
	V	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290	
	V-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355	
300 φ (H ≤ 320)	I	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314	
	II	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315	
	III	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316	
	IV	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324	
	V	16	370	210	226	80	523	50	③	5.31	326	
350 φ (H ≤ 370)	V-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406	
	I	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349	
	II	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350	
	III	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351	
	IV	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359	
400 φ (H ≤ 420)	V	16	420	260	226	80	593	50	③	5.93	361	
	V-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441	
	I	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384	
	II	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385	
	III	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386	
450 φ (H ≤ 470)	IV	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395	
	V	16	470	310	226	80	664	50	③	6.55	396	
	V-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476	
	I	6	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421	
	II	8	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422	
500 φ (H ≤ 520)	III	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430	
	IV	16	530	370	226	80	749	55	③	7.31	439	
	V	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519	
	I	6	560	470	127	45	791	45	①	2.10	456	
	II	8	560	450	155	55	791	45	②	2.73	457	
550 φ (H ≤ 570)	III	13	570	440	183	65	806	50	②	4.88	466	
	IV	16	580	420	226	80	820	55	③	7.94	474	
	V	16	580	486	292	80	980	55	④	13.04	554	
	II	10	610	500	155	55	862	45	②	2.95	492	
	III	13	620	490	183	65	876	50	②	5.28	501	
600 φ (H ≤ 630)	IV	16	630	470	226	80	890	55	③	8.56	509	
	V	16	630	536	292	80	1050	55	④	13.98	589	
	II	10	660	550	155	55	933	45	②	3.17	528	
	III	13	670	540	183	65	947	50	②	5.68	536	
	IV	16	680	520	226	80	961	55	③	9.18	545	
650 φ (H ≤ 680)	V	16	680	586	292	80	1121	55	④	14.92	625	
	II	10	720	610	155	55	1018	45	②	3.44	570	
	III	13	730	600	183	65	1032	50	②	6.16	579	
	IV	16	750	590	226	80	1060	60	③	10.07	594	
	V-3R	16	750	656	292	80	1220	60	④	16.24	674	
700 φ (H ≤ 730)	II	10	770	660	155	55	1088	45	②	3.67	605	
	III	13	780	650	183	65	1103	50	②	6.55	614	
	IV	16	800	640	226	80	1131	60	③	10.69	630	
	V	16	800	706	292	80	1291	60	④	17.17	710	
	II	10	820	710	155	55	1159	45	②	3.89	641	
750 φ (H ≤ 750)	III	13	830	700	183	65	1173	50	②	6.95	649	
	IV	16	850	690	226	80	1202	60	③	11.32	665	
	V	16	850	756	292	80	1362	60	④	18.11	745	
	II	10	870	760	155	55	1230	45	②	4.11	676	
	III	13	880	750	183	65	1244	50	②	7.35	685	
IV	16	900	740	226	80	1272	60	③	11.94	700		
	16	900	806	292	80	1432	60	④	19.05	780		